

科目名	科目担当代表教員	ページ数
心理学概論	石垣 則昭	3
総合教養講座	白戸 力弥	8
文章表現	矢部 玲子	13
食生活論	荒井 三津子	18
生活と社会環境	辻 幸美	23
キャリア入門	木村 悠里菜	28
現代医療と福祉・介護	高岡 哲子	32
日本国憲法	池田 杏奈	37
情報処理	常見 裕子	42
生命科学	有賀 早苗	47
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	52
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	56
統計の基礎	武田 裕康	60
英語 I	Patrick Hall	65
英語 II	相馬 哲也	70
韓国語 I	曹 順姫	75
韓国語 II	曹 順姫	80
生涯スポーツ I	平岡 英樹	85
生涯スポーツ II	平岡 英樹	90
教育学概論 I	中田 和彦	95
教育学概論 II	中田 和彦	100
生涯学習概論 I	吉岡 亜希子	105
生涯学習概論 II	吉岡 亜希子	110
教育心理学 I	石垣 則昭	115
地域未来概論(地域の未来を語る)	熊野 稔	120
世界と北海道	小山田 健	125
日本政治経済論	宮本 融	130
教育から考える地域と未来 I	中田 和彦	135
教育から考える地域と未来 II	中田 和彦	140
コミュニティ教育論 I	宮崎 隆志	145
コミュニティ教育論 II	宮崎 隆志	150
健康社会と福祉	松本 洋子	155
まちづくり法規	熊野 稔	160
地域を知る(地域未来創造入門)	熊野 稔	165
地域を知る(地域未来創造入門)	木村 俊昭	170
地域を知る(地域未来創造入門)	中田 和彦	175
地域を知る(地域未来創造入門)	宮崎 隆志	180
地域を知る(地域未来創造入門)	吉岡 亜希子	185
地域を知る(地域未来創造入門)	木村 悠里菜	190
地域を知る(地域未来創造入門)	松田 祐	195
地域未来創造基礎(Adventure)	熊野 稔	200

地域未来創造基礎(Adventure)	木村 俊昭	.....	205
地域未来創造基礎(Adventure)	中田 和彦	.....	210
地域未来創造基礎(Adventure)	宮崎 隆志	.....	215
地域未来創造基礎(Adventure)	吉岡 亜希子	.....	220
地域未来創造基礎(Adventure)	木村 悠里菜	.....	225
地域未来創造基礎(Adventure)	松田 祐	.....	230

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		心理学概論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石垣 則昭						

授業の位置づけ

心理学概論は、全共通教養科目の教養人文系・科目として、現代の自然、人間、社会において生起する複雑・多様な諸現象に関してこれを的確に読み解き、妥当な判断ができる教養を身につける科目に位置付けられている。健康栄養学科では、現代医療と福祉・介護さらに全学年共通の疾病の成り立ちとの関連を重視し学習を進める。こども発達学科においては、乳幼児期のこどもの成長・発達を支える知識や技術を学ぶ対象の理解の分野である乳幼児心理学、青年心理学との関連を重視する。地域未来学科においては、幅広い教養を身につける人間と文化に位置付けられ、ディプロマポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学における専門的知識、技能を身につけ、生涯に渡り学び続ける教養を有している(知識技能)」。「地域社会における意欲的かつ主体的のある個人や企業の学習活動を引き出し支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」に位置付けられ、教育心理学Ⅰ、教育心理学Ⅱとの関連を重視する。リハビリテーション学科理学療法専攻では、医療と理学療法に位置し、ディプロマポリシーの「臨床場面や研究において、状況に変化に柔軟に対応できるコミュニケーションを身につけている(思考・判断・表現)」に位置付けられ専門・専門基礎科目と連携している教養科目として臨床心理学との関連を重視する。リハビリテーション学科作業療法専攻では、医療と心理と社会と作業の分野に位置し、ディプロマポリシーの「業療法を実践するために必要な基礎的知識を身につけている(知識技能)」。「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」などに位置付けられ専門・専門基礎科目と連携している教養科目として臨床心理学との関連を重視する。看護学科においては、幅広い教養を身につける教養人文系に位置し、ディプロマポリシーの「看護の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる(思考・判断・表現)」などに位置付けられ専門・専門基礎科目と連携している教養科目としてメンタルヘルスとの関連を重視する。

授業の概要

本科目では、人格論に焦点を合わせ難解な現代心理学の概観を試みる。まず学習、動機づけ、知覚等の心理学的概念を用いて人格の形成過程を説明する。さらに摂食障害、薬物依存、多重人格等、広く人格障害に関与する異常行動の病理に言及する。履修者は心理学を通して、人間が外側からは知ることのできない人間のこころの内側と、そのしくみをどのように解き明かしてきたのかを知ると同時に、その方法を自分自身にも適用し自分を客観的に見つけ、いまの自分がどのように形成されてきたのか。また今の自分をどのように変えていくことができるのかという問題に、答えられることを期待する。

到達目標

①心理学が辿った歴史的研究の過程と特徴を理解する(知識・技能)。②心理学概論の研究の変遷を適切にとらえ表現することができる(思考・判断・表現)。③心理学概論の学習を他のメンバーと協力し、学習課題を解決することができる(関心・意欲・態度)。

授業の方法

授業の到達目標を達成するため、説明と演習の知的生産交流により授業を進める。受講者の学習への主体化を図るため、ハイブリッド型(ICTの活用と対面学習)を中心にアクティブラーニングにより授業を進める。毎時間、400字～700字及程度で作成する学習レポートを授業中クラスルームより送信、学習終了前に完成させ返信する。その後、採点し返却する。あわせて14回目に小テスト(30点満点)を実施し、総合的に学習評価を行う。

ICT活用

毎時間のレポートの作成、FAMアプローチによる授業評価などグーグルクラスルームの活用による教師と学生の双方向による授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

北海道内の公立中学校の校長12年の実務経験と教育及び心理学理論により教職員と共に生徒指導上の課題が山積する学校の改善を図り、生徒の人間関係力の育成、学力向上を中心に様々な教育成果をあげ数たびメディアで全国に紹介された。また校長在任中より現在までの間、北海道内外の保幼小中高等学校、特別支援学校、医療法人、民間企業へ「職場のメンタルヘルスの保持・増進」社会心理学による「職場の人間性」[ソーシャルエモーションナルラーニング(SEL)]など研修会の講師を務めている。さらに今日的な教育問題に対応するため発達心理学を起点にソリューション・フォーカスト・アプローチ(SFA)、選択理論、認知行動、現実療法などの心理理論により各種研修会の講師を務めている。さらに心理分析により学校問題委員、いじめ重大調査委員長、特別支援委員をはじめ北海道内外の各種教育関係委員及び相談活動に応じている。

課題に対するフィードバックの方法			
質問は授業中、クラスルームでのレポート提出時とあわせ随時受けつけ、内容により受講者全員への還元を図る。また毎時間、授業への自己評価、相互評価さらにルーブリックにより学習レポートを作成し、学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ルーブリック評価による評価基準、授業規律重視の授業の意義の説明、心理学概論を学ぶ意義、基礎心理学の進化心理学、行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズと1.自己発見とは何かを理解できる。	心理学概論を学ぶ意義、基礎心理学の進化心理学、行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズと自己発見心理学、心理学概論とは何かを各自調べ授業に臨む。(90分)	ルーブリック評価による評価基準、授業規律重視の授業の意義の説明、心理学概論を学ぶ意義、基礎心理学の進化心理学、行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズと1.自己発見の内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	教科書2ヒポクラテスの単純元素、3プラトンの自己概念、4中世暗黒時代、5イスラムと心、6共通感覚、7一つの身体と一つの魂、8悪魔祓い、9心理学、10デカルトの思考機械の学習内容が理解できる。	教科書2ヒポクラテスの単純元素、3プラトンの自己概念、4中世暗黒時代、5イスラムと心、6共通感覚、7一つの身体と一つの魂、8悪魔祓い、9心理学、10デカルトの思考機械の学習内容を調べ授業に臨む。(90分)	教科書2ヒポクラテスの単純元素、3プラトンの自己概念、4中世暗黒時代、5イスラムと心、6共通感覚、7一つの身体と一つの魂、8悪魔祓い、9心理学、10デカルトの思考機械の内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	教科書11脳地図の作成、12知識の本性、13観念と実物、14メスマリズム、15骨相学、16ウェバー・フェヒナーの法則、17自己の選択、18フィニアス・ゲージ、19気分障害の学習内容が理解できる。	教科書11脳地図の作成、12知識の本性、13観念と実物、14メスマリズム、15骨相学、16ウェバー・フェヒナーの法則、17自己の選択、18フィニアス・ゲージ、19気分障害の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書11脳地図の作成、12知識の本性、13観念と実物、14メスマリズム、15骨相学、16ウェバー・フェヒナーの法則、17自己の選択、18フィニアス・ゲージ、19気分障害の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第4回	教科書20チャールズ・ダーウィンと情動、21生まれと育ち、22ヒステリー、23心理学の起源、24情動のジェームス・ランゲ説、25大脳半球優位性、26精神分析を中心課題に学習内容が理解できる。	教科書20チャールズ・ダーウィンと情動、21生まれと育ち、22ヒステリー、23心理学の起源、24情動のジェームス・ランゲ説、25大脳半球優位性、26精神分析を中心課題に学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書20チャールズ・ダーウィンと情動、21生まれと育ち、22ヒステリー、23心理学の起源、24情動のジェームス・ランゲ説、25大脳半球優位性、26精神分析を中心課題に学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第5回	教科書27心理学の原理、28自律神経系、29双極性障害、30解離性障害、31青年期、32パブロフの犬と条件付け、33統合失調症、34ユングの原型、35劣等コンプレックスを中心に36サイコドラマの学習内容が理解できる。	教科書27心理学の原理、28自律神経系、29双極性障害、30解離性障害、31青年期、32パブロフの犬と条件付け、33統合失調症、34ユングの原型、35劣等コンプレックスを中心に36サイコドラマの学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書27心理学の原理、28自律神経系、29双極性障害、30解離性障害、31青年期、32パブロフの犬と条件付け、33統合失調症、34ユングの原型、35劣等コンプレックスを中心に36サイコドラマの学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			

第6回	教科書37知能指数(IQ)、38サルの精神能力、39ゲシュタルト心理学の潮流、40アルバート坊や研究、41ロールシャッハテスト、42発達心理学を中心に43刷り込み、44ストロープ効果の学習内容が理解できる。	教科書37知能指数(IQ)、38サルの精神能力、39ゲシュタルト心理学の潮流、40アルバート坊や研究、41ロールシャッハテスト、42発達心理学を中心に43刷り込み、44ストロープ効果の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書37知能指数(IQ)、38サルの精神能力、39ゲシュタルト心理学の潮流、40アルバート坊や研究、41ロールシャッハテスト、42発達心理学を中心に43刷り込み、44ストロープ効果の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第7回	教科書45心理学の場理論、46自閉症、47体形の心理学、48偏見の学習、49非生産的パーソナリティ、50知能の心理学、51徹底的行動主義、52認知行動療法を中心に学習内容が理解できる。	教科書45心理学の場理論、46自閉症、47体形の心理学、48偏見の学習、49非生産的パーソナリティ、50知能の心理学、51徹底的行動主義、52認知行動療法を中心に学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書45心理学の場理論、46自閉症、47体形の心理学、48偏見の学習、49非生産的パーソナリティ、50知能の心理学、51徹底的行動主義、52認知行動療法を中心に学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第8回	教科書53人生の八つの段階54パーソン-センタード療法、55仲間からの圧力と同調行動、56多重パーソナリティ障害、57神経信号、58欲求理論、59欲求の階層構造を学習の中心課題とし60言語の獲得の学習内容が理解できる。	教科書53人生の八つの段階54パーソン-センタード療法、55仲間からの圧力と同調行動、56多重パーソナリティ障害、57神経信号、58欲求理論、59欲求の階層構造を学習の中心課題とし60言語の獲得の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書53人生の八つの段階54パーソン-センタード療法、55仲間からの圧力と同調行動、56多重パーソナリティ障害、57神経信号、58欲求理論、59欲求の階層構造の学習を学習の中心課題とし60言語の獲得の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第9回	教科書61ワーキングメモリ、62道徳性の発達、63認知不協和を学習の中心課題とし64注意フィルター、65反精神医学、66モデリング行動、67「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」、68フーコーの人間観、69記憶痕跡、70抑うつテスト「うつ行のテスト」の学習内容が理解できる。	教科書61ワーキングメモリ、62道徳性の発達、63認知不協和を学習の中心課題とし64注意フィルター、65反精神医学、66モデリング行動、67「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」、68フーコーの人間観、69記憶痕跡、70抑うつテスト「うつ行のテスト」の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書61ワーキングメモリ、62道徳性の発達、63認知不協和を学習の中心課題とし64注意フィルター、65反精神医学、66モデリング行動、67「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」、68フーコーの人間観、69記憶痕跡、70抑うつテスト「うつ行のテスト」の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第10回	教科書71反対感情、72愛着理論を学習の中心課題とし73スタンフォード実験、74家族療法、75記憶地図、76驚愕実験:正気なのはだれ?、77ヒューリスティクス、78天才の問題の学習内容が理解できる。	教科書71反対感情、72愛着理論を学習の中心課題とし73スタンフォード実験、74家族療法、75記憶地図、76驚愕実験:正気なのはだれ?、77ヒューリスティクス、78天才の問題の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書71反対感情、72愛着理論を学習の中心課題とし73スタンフォード実験、74家族療法、75記憶地図、76驚愕実験:正気なのはだれ?77ヒューリスティクス、78天才の問題の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			

第11回	教科書79がっかりさせてしまう記憶、80アイデンティティ、81衝動性と強迫性、82感覚データ、83自己肯定感を中心課題とする学習内容が理解できる。	教科書79がっかりさせてしまう記憶、80アイデンティティ、81衝動性と強迫性、82感覚データ、83自己肯定感を中心課題とする学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書79がっかりさせてしまう記憶、80アイデンティティ、81衝動性と強迫性、82感覚データ、83自己肯定感を中心課題とする学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第12回	教科書84広告が有効な理由、85フロー体験＝幸福感、86マインドフルネス、87機能的MR、88六つの基本感情を中心課題に学習し89超心理学、90つりがね型の曲線の学習内容が理解できる。	教科書84広告が有効な理由、85フロー体験＝幸福感、86マインドフルネス、87機能的MR、88六つの基本感情を中心課題に学習し89超心理学、90つりがね型の曲線の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書84広告が有効な理由、85フロー体験＝幸福感、86マインドフルネス、87機能的MR、88六つの基本感情を中心課題に学習し89超心理学、90つりがね型の曲線の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第13回	教科書91心的外傷後ストレス障害(PTSO)を中心に学習し92フォースメモリー、93意識に関する難問、94ミラーニューロン、95社会的調和、96あいまいさへの嫌悪の学習内容が理解できる。	教科書91心的外傷後ストレス障害(PTSO)を中心に学習し92フォースメモリー、93意識に関する難問、94ミラーニューロン、95社会的調和、96あいまいさへの嫌悪の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書91心的外傷後ストレス障害(PTSO)を中心に学習し92フォースメモリー、93意識に関する難問、94ミラーニューロン、95社会的調和、96あいまいさへの嫌悪の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、97心理学による不平等の説明、98性的違和、99ブレイン・イニシチブ、100再現可能性の危機の学習内容が理解できる。	学習のまとめとしての小テストの学習準備を行い、97心理学による不平等の説明、98性的違和、99ブレイン・イニシチブ、100再現可能性の危機の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	学習のまとめとしての小テストの振り返りを行い、97心理学による不平等の説明、98性的違和、99ブレイン・イニシチブ、100再現可能性の危機の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員			
第15回	教科書、心理学の基本概念、心理学に残された問題の学習内容を理解し、本科全体の学習を振り返り学習のまとめを行う。	教科書、心理学の基本概念、心理学に残された問題の学習内容を調べるとともに、本科全体の学習を振り返り学習のまとめを行い授業に臨む。(90分)	教科書、心理学の基本概念、心理学に残された問題の学習内容を調べるとともに、本科全体の学習を振り返り学習のまとめを整理する。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
図鑑心理学～歴史を変えた100の話～(トム・ジャクソン＝著 清水・井上智義＝監訳・訳 (NEWTONPRESS 2020発行)を教科書とする。		
<b>参考文献</b>		
自作の補助資料を授業ごとに提供しする。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
難解な学習内容を理解するため準備学習、事後学習は必ず行い提出物は期限を厳守する。授業中はオリエンテーションにて説明した学習規律を重視し、自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「心理学概論」への理解を深めて頂きたい。		
<b>備考欄</b>		
なし		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 地域未来学科						
区分	教養科目 人間と文化						
科目名	総合教養講座					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。

国際教養学科のディプロマ・ポリシー (DP) の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」と関連する。リハビリテーション学科理学療法専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関連する。

授業の概要

この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。

到達目標

- ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsの取り組みの重要性を理解できること。
- ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
- ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- ・Google Classroomの利用ができること。
- ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

図書館の利用方法など、一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法			
<p>グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。</p>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く正しく雄々しく進め」に込められた、真理を探求する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	授業を受講するには② 履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	遠隔授業の受講方法について 本学で遠隔授業のツールとして使用しているGoogle Classroomの使用方法について学び、遠隔授業を受講できるようになる。	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第6回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、 蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。 (図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。 また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学生会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学生会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学生会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉強時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第13回	えこりん村SDGs研修① (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	えこりん村SDGs研修② (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。研修を受けた感想を提出する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修③ (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし。		
<b>参考文献</b>		
渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年―恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット 渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別紙で連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。13～15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		文章表現				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	矢部 玲子						

授業の位置づけ

「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している(知識・技能)。」ことと関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、大学生活の基本となる日本語の文章表現能力を学ぶ。日本語そのものの基本を押さえた上で、思考法を鍛え、レポート・論文の作成力を修得し、日本語の基礎的な法則を確実に定着させながら、日本語の文章表現の能力を高める。また、様々な文章の「型」を文章作成と添削および相互批評を組み合わせた実作学習によって習得することで、社会で必要となるスキルを身に付けることを目指す。

到達目標

- ・社会に存在する様々な文章の「型」について分類することができるようになる。
- ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実際的な文章作成ができるようになる。
- ・文の正誤・適否・美醜等が区別できるようになる。

授業の方法

1. 講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。
2. 説明に基づいて実際に各自文章作成・添削・相互評価を、毎時間行う。
3. インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
4. 全授業で数回文章作成能力到達度チェックを行う。
5. 完成させた文章は毎時間提出して担当教員の添削を受け、指定されたものをすべて提出する。

ICT活用

必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

公立中学校・高等学校の国語科教師としての勤務経験が約10年あり、学校教育、中でも国語科教育に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	手紙文の型 手紙文の形式を理解し、心情を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.6-11の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第2回	ビジネス文書の型 ビジネス文書の形式を理解し、用件を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.12-15の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	三段構成の型 「三段構成で書く」、「常体文で書く」、「一文を40字以内で書く」ことを理解し、これらの書式による文章作成を学ぶ。	PP.16-19の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第4回	原稿用紙を用いた文章作成の型 意見文視写を通して、原稿用紙を用いた日本語表記法に沿った文章作成を学ぶ。	PP.20-23の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	新聞読者投稿欄の文章の型 新聞投書欄の文章作成を通して、客観的な視点で事実を書くことを学ぶ。	PP.24-25の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第6回	<p>見ることと書くことの関係(1) 報道文 身近な事件に関するメモをもとに、報道文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことを学ぶ。</p>	<p>PP.26-27の熟読・理解・課題作成。(90分)</p>	<p>講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)</p>
担当教員			
第7回	<p>見ることと書くことの関係(2) 観察文 身近な対象に関する観察メモをもとに、観察文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことに習熟することを学ぶ。</p>	<p>PP.28-29の熟読・理解・課題作成。(90分)</p>	<p>講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)</p>
担当教員			
第8回	<p>インタビュー書き起こし文の型 履修者同士のインタビューと紹介文の作成を通して、聞き書きの手法による文章作成を学ぶ。</p>	<p>PP.30-33の熟読・理解・課題作成。(90分)</p>	<p>講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)</p>
担当教員			
第9回	<p>聞き書きの型(1) 前回の「インタビュー」を発展させ、「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を聞き書きし、記録する方法を学ぶ。</p>	<p>PP.34-35の熟読・理解・課題作成。(90分)</p>	<p>講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)</p>
担当教員			
第10回	<p>聞き書きの型(2) 「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を本人に代わって記録させてもらい、聞き書きとして完成させることを学ぶ。</p>	<p>PP.36-37の熟読・理解・課題作成。(90分)</p>	<p>講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)</p>
担当教員			

第11回	論説文の型 論説文の型に沿って文章を作成することを通して、事実と意見を適切に書き分ける方法を学ぶ。	PP.38-41の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	論文に挑戦！(1) 「はじめに」、「各章」、「考察」、「おわりに」等論文の形式や、書くための資料を入手する(ドキュメンテーション)の手法について学ぶ。	PP.42-45の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第13回	論文に挑戦！(2) 前回までの学習を生かし、形式に沿って論文作成に取り組む。	PP.46-47の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	論文に挑戦！(3) 前回までの学習を生かし、論文形式の文章を作成し、完成させる。	PP.48-49の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	添削と推敲—まとめ— これまで学んだ文章表現にかかわる知見に基づき、習得した文章表現能力について、添削と推敲を通して自己評価することを学ぶ。	PP.50-51の熟読・理解・課題作成。指定された提出課題の完成。(90分)	指定された提出課題の完成・提出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>作成した文章のうち指定されたものを提出する。 指示された課題をすべて提出した場合、評価の対象とする。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>出席率66%以上を評価対象とする。</p>
<p><b>教科書</b></p>		
<p>「型」で身につける文章作成技術／矢部玲子／大学図書出版</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>必要に応じて提示する。 必要に応じて教材配信システムを活用する。</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>状況如何で講義内容変更の場合あり。 教材配信システム使用。 出席率66%以上で全対象課題提出の場合評定対象とする。 連絡はGoogle classroom で行う。 メールでの問合せ等には必要に応じて対応する。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p></p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						

授業の位置づけ

ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係が築くことができる」と、作業療法学科でのディプロマ・ポリシーとして、「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。

授業の概要

ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。

到達目標

医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。  
 ○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。  
 ○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。  
 ○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。

授業の方法

- ①教科書を利用し、確実に講義の内容を把握できるよう指導する。
- ②必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。
- ③内容に合わせて、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。
- ④中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法			
調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「食」は生理的、文化人類学的、社会学的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	科書全体の構成を把握し、「食べる」ことを学ぶ意義を考察する。90分程度。
担当教員			
第2回	私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	教科書P2～8を読んでくること。90分程度。	講義で学んだ「食べる理由」について整理しておくこと。90分程度。
担当教員			
第3回	<食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情> ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	教科書9～14まで読んでくること。90分程度。	消化の仕組みと腸内環境について理解する。90分程度。
担当教員			
第4回	<ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満> ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能的食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	教科書P17～26まで読んでくる。90分程度。	ヒトが痩せたい理由とダイエットの問題点について整理しておく。90分程度。
担当教員			
第5回	<ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム> 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	前回学んだ『食べない理由』を復習し、P28～30、P72～73を読んでくる。90分程度。	「食のタブー」とベジタリアン、フードファディズムについて説明できるようにしておく。90分程度。
担当教員			

第6回	<p>&lt;「食べ方」を学ぶ理由&gt; 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。</p>	<p>教科書P41～51まで読んでおくこと。90分程度。</p>	<p>作法が必要な意義について考察しておくこと。90分程度。</p>
担当教員			
第7回	<p>&lt;ヒトから人間へ・食べるモノの変遷&gt; 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。</p>	<p>教科書P54～61まで読んでおくこと。90分程度。</p>	<p>日本の食の歴史を整理しておくこと。餌と食事の違いを説明できること。90分程度。</p>
担当教員			
第8回	<p>&lt;おいしさとはなにか&gt; 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。</p>	<p>教科書のP72～80まで読んでおくこと。90分程度。</p>	<p>「おいしい」とはどのようなことか整理しておくこと。90分程度。</p>
担当教員			
第9回	<p>&lt;ヒトはなぜ食べるのか&gt; 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。</p>	<p>前回までの講義内容を復習しておくこと。90分程度。</p>	<p>中間の総まとめの講義内容を復習しておくこと。90分程度。</p>
担当教員			
第10回	<p>&lt;「食」の未来&gt; 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。</p>	<p>教科書p84～96まで読んでおくこと。90分程度。</p>	<p>養殖や染色体、遺伝子組み換えなどについて整理しておくこと。90分程度。</p>
担当教員			

第11回	<食事空間を学ぶ> 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	教科書p98～105まで読んでおくこと。90分程度。	台所と調理の進化を整理し、これからの食事について考察すること。90分程度。
担当教員			
第12回	<「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告> 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	教科書p107～p115まで読んでおくこと。90分程度。	周囲にある食関連の広告を調査整理すること。90分程度。
担当教員			
第13回	<「食」の演出> 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	教科書p81～83、p124～p132を読んでおくこと。90分程度。	自分の周囲の食卓について調査してみる。90分程度。
担当教員			
第14回	<餌場から食事の場へ・テーブルコーディネート機能> 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	前回の講義内容を整理しておくこと。90分程度。	食卓の演出について具体的なテクニックを整理する。90分程度。
担当教員			
第15回	<年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について> 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。	年中行事に食べるものについて調査しておくこと。90分程度。	教科書全体の重要事項をまとめておくこと。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
食学入門―食べるヒト・食べるモノ・食べるコト― / 荒井三津子 / 光生館		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
私語厳禁。 毎回必ず教科書を持参すること。		
<b>備考欄</b>		
特になし		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		生活と社会環境				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	辻 幸美、金子 翔拓						

授業の位置づけ

各該当学科のディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、現代日本の社会環境を高齢者や代表的な疾患による身体障害を持つ人を通して理解するとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につける共通重要科目であり、更に人の生活全般と関連し、地域医療や社会環境を考える基礎となると共に、将来医療職種専門職を希望される学生においては、必要と考える。特に看護科においては、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を会得する重要科目である。(思考・判断・表現)

授業の概要

現代日本においては、様々な疾患や障害を持つ人々が地域社会で生活している。この現状を踏まえ、疾患や障害といった背景を持ちながらも快適な生活を送るためにはどのような生活環境の整備が求められているのかについて、生活環境が生活の質に大きく影響する疾患や障害の特徴を理解したうえで考察する。

到達目標

- ① 現代日本の地域医療の現状を説明できる。
- ② 代表的な疾患に適合した生活環境の整備について説明できる。
- ③ 今後の日本における生活環境のあるべき姿を考え、説明することができる。

授業の方法

パワーポイントを用い講義形式ですすめる。また、講義後に課題を提示し講義内容の確認を行う。

ICT活用

授業中の課題の一部にGoogle Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として勤務した経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

辻幸美:22年間、脳神経外科病院で看護師として務めた経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
前回授業の最後に提出された課題に関して、次回の授業で補足説明や解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 医療保険制度の現状を理解する(診療報酬制度等も含む)	自身を取り巻く生活環境について考えてくること。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者の生活と社会環境① 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)が生活するうえでの「リスク」について理解を深める。	高齢者が抱えるリスクについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	高齢者の生活と社会環境② 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)に適する生活環境の整備について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第4回	障害者の生活と社会環境③ 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考える。	筋ジストロフィー疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	障害者の生活と社会環境④ 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考えるパート2	前回の講義で提示された疾患の患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第6回	障害者の生活と社会環境⑦ 重症心身障害児(者)の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	重症心身障害児(者)はどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第7回	障害者の生活と社会環境⑧ 精神疾患患者の生活環境の整備について考える。	精神疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	ハンセン病とハンセン病療養施設の生活と社会環境について、過去の日本における偏見と差別を鑑み考える。	ハンセン氏病を取り巻く社会の歴史を調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	介護保険制度の現状を理解し、地域社会で在宅サービスを受ける対象者について理解する。	介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第10回	障害者の生活と社会環境① 脳卒中患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脳卒中とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第11回	障害者の生活と社会環境② 脳卒中患者の生活環境の整備について考える。	脳卒中患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	障害者の生活と社会環境⑤ パーキンソン病患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	パーキンソン病とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第13回	障害者の生活と社会環境⑥ パーキンソン病患者の生活環境の整備について考える。	パーキンソン病患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	障害者の生活と社会環境⑨ 脊髄損傷患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脊髄損傷とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	障害者の生活と社会環境⑩ 脊髄損傷患者の生活環境の整備について考える。 まとめ 1～14回までの内容について総復習を行い、障害を持つ人の生活環境について理解する。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。 1～14回の内容について、これまでに作成したノートを確認しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし(プリントにて対応)		
<b>参考文献</b>		
特に指定しない		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
なし		
<b>備考欄</b>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

## 授業の位置づけ

本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。

## 授業の概要

グローバル化と高度情報化が益々進展する現代社会においては、自己のアイデンティティを確立することが重要である。そのために、我々をとりまく文化、環境を再認識しながら自らの生き方や生活、仕事について考えることを目指す。

## 到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。
- ・自己理解の方法（「人生曲線」、「ジョハリの窓」等）、「計画的偶発性」について述べることができる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。

## 授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

## ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

## 実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法			
各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	働くことの意味などを考えた上で、我々を取り巻く市場環境や「社会人基礎力」などを学ぶ。	高校生と大学生の違いと、働くことの意味について、調べ、考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第3回	自己理解の方法の全体像を理解した上で、テストの実施を通して学ぶ。「計画的偶発性」などを学ぶ。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などの概要を理解する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		

第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などの概要を理解する。	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第7回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第8回	これまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート	
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲など	
<b>教科書</b>			
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房			
<b>参考文献</b>			
授業内で順次紹介する。			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

- 各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- 出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- 講義中に私語が多い学生や講義とは関係のない行為をする学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		現代医療と福祉・介護				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						

授業の位置づけ

各該当学科のディプロマポリシーを鑑み、地域包括ケアシステムにおいて高齢者障害者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、[住まい][医療][介護][看護][予防][生活支援]が切れ目なく一体的に提供ができ、「[心/意欲/態度]」が養われる重要な科目である。更に日本の社会事情を広く理解するうえで必要な知識としての[医療/福祉/介護]に焦点をあて、近未来の社会制度を思考し、構築するための基礎的能力の向上を目指す。

授業の概要

少子高齢化、人口減、労働力の減退などの社会構造が大きく変容している背景により、現代医療は、福祉や介護との連続性と包括的な制度や考え方が大きく変遷している。このようなことから、医療や福祉・介護に携わる者は、制度論だけではなく、幅広く社会を俯瞰する知識や倫理観を持ち備えることが必要である。これらをふまえ、授業では医療、福祉、介護の現状を理解し、日本が現在抱えている諸問題について考え、その解決策を探る。また、日本と諸外国における医療、福祉、介護制度を比較し、日本の特徴を理解する。同時に今後の日本の理想的な医療、福祉、介護のあるべき姿を考える。

到達目標

- ・社会と我が国における社会問題を理解し、自身の考えを述べることができる。
- ・医療と我が国における医療問題を理解し、自身の考えを述べることができる。
- ・福祉と我が国における福祉問題を理解し、自身の考えを述べることができる。
- ・介護と我が国における介護問題を理解し、自身の考えを述べることができる。
- ・医療・福祉・介護におけるコミュニケーションの特徴と実践方法を説明することができる。

授業の方法

授業の方法は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して行う。教材は、担当教員が作成した資料である。本科目は、理解度を確認するための確認テスト5回の提出によって評価する。

ICT活用

G Suite for educationを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

総合的な病院において看護師として約7年間勤務した経験の中で、高齢者を対象にケアを行った経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
提出された確認テストの解説を、集団に対して行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイドンス(講義・GW) 内容:現代医療と福祉・介護の位置づけとシラバスの説明 行動目標:ガイドンス内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題が説明できる。 GW:本科目が将来、どのように役立つのかを検討する。	・シラバスを熟読する。 ・ノートを準備する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 学習すべき内容を確認して自らが学習すべき内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第2回	社会とは何か(講義・GW) 内容: ・社会の定義 ・社会の意味と歴史的背景 ・社会の概念 行動目標:社会とは何かが説明できる。 GW:社会と個人との関係を検討する。	社会とは何かを調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身の社会に対する考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第3回	日本が抱えている社会問題(講義) 内容: ・社会問題とは何か ・具体的な社会問題 ・社会問題の解決策 行動目標:日本が抱えている社会問題を説明することができる。 確認テスト①	日本が抱えている社会問題を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・社会問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第4回	医療とは何か(医療制度を含む)(講義・GW) 内容: ・医療の定義 ・医療の意味と歴史的背景 ・医療の概念 行動目標:医療とは何かが説明できる。 GW:医療現場で自身がとるべき態度を検討する。	医療とは何かを調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身の医療に対する考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第5回	医療における2025年問題(講義・GW) 内容: ・2025年問題とは何か ・具体的な2025年問題 ・2025年問題の解決策 行動目標:日本が抱えている医療における2025年問題を説明することができる。 GW:医療における2025年問題に対して自身ができることを検討する。	2025年問題を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・社会問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		

第6回	<p>医療における少子高齢化問題(講義) 内容: ・少子高齢化問題とは何か ・具体的な少子高齢化問題 ・少子高齢化問題の解決策 行動目標:日本が抱えている医療における少子高齢化問題を説明することができる。 確認テスト②</p>	少子高齢化問題を調べてノートに記載する。(90分)	<p>・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・少子高齢化問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)</p>
担当教員	高岡 哲子		
第7回	<p>福祉とは何か(講義・GW) 内容: ・福祉の定義 ・福祉の意味と歴史的背景 ・福祉の概念 行動目標:福祉とは何かが説明できる。 GW:福祉の現場で自身がとるべき態度を検討する。</p>	福祉とは何かを調べてノートに記載する。(90分)	<p>・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身の福祉に対する考えをノートにまとめる。(90分)</p>
担当教員	高岡 哲子		
第8回	<p>日本が抱える福祉問題(講義) 内容: ・福祉問題とは何か ・具体的な福祉問題 ・福祉問題の解決策 行動目標:日本が抱えている福祉問題を説明することができる。 確認テスト③</p>	福祉問題を調べてノートに記載する。(90分)	<p>・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・福祉問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)</p>
担当教員	高岡 哲子		
第9回	<p>介護とは何か(講義・GW) 内容: ・介護の定義 ・介護の意味と歴史的背景 ・介護の概念 行動目標:介護とは何かが説明できる。 GW:介護の現場で自身がとるべき態度を検討する。</p>	介護とは何かを調べてノートに記載する。(90分)	<p>・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身の介護に対する考えをノートにまとめる。(90分)</p>
担当教員	高岡 哲子		
第10回	<p>日本が抱える介護問題(講義) 内容: ・介護問題とは何か ・具体的な介護問題 ・介護問題の解決策 行動目標:日本が抱えている医療における介護問題を説明することができる。 確認テスト④</p>	介護問題を調べてノートに記載する。(90分)	<p>・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・介護問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)</p>
担当教員	高岡 哲子		

第11回	日本と諸外国の医療・福祉・介護の比較(講義・GW) 内容: ・日本と諸外国の医療の比較 ・日本と諸外国の福祉の比較 ・日本と諸外国の介護の比較 行動目標:日本と諸外国の比較において医療・福祉・介護の特徴を説明できる。 GW:日本と諸外国の特徴を検討する。	イギリス、フランスなどの医療・福祉・介護を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・日本と諸外国の医療、福祉、介護の特徴をまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第12回	医療・福祉・介護に必要なコミュニケーション1(講義・GW) 内容: ・コミュニケーションとは ・コミュニケーションの特徴 ・医療・福祉・介護に必要な共感力 行動目標:医療・福祉・介護に必要なコミュニケーション能力が説明できる。 GW:相手が言っていることが適切に理解するために必要なことを検討する。	コミュニケーションとは何かを調べる(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身が考えるコミュニケーションに必要なことをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第13回	医療・福祉・介護に必要なコミュニケーション2(講義) 内容: ・コミュニケーションに必要な読解力とは何か ・読解力の測定方法 ・コミュニケーションの実際 行動目標:コミュニケーションに必要な読解力が説明できる。	指定された事前課題を行う。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・読解力において自分の強みと弱みを理解し、ノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第14回	医療・福祉・介護に必要なコミュニケーション3(GW) 内容: ・事前学習を基にディスカッションする。 ・ディスカッション内容を発表する。 GW:事前学習を基に検討する。 確認テスト⑤	指定された事前課題を行う。(90分)	GWの内容をふりかえり、自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第15回	全授業のふりかえり 内容:授業で学習したすべての内容をふりかえる。 行動目標:本授業の学習のふりかえりができる。	本授業のノートを見直して整理する。(90分)	本授業の学習成果をいつでも見返せるように整理する。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
プリント配布		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
必要時講義中に提示する。		
<b>備考欄</b>		
なし		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田 杏奈						
<b>授業の位置づけ</b>							
人間社会のルールの一つである日本国憲法を学ぶことにより、幅広く教養を身につける科目である。							
<b>授業の概要</b>							
民主主義(国民主義)と基本的人権の相関関係を明確にするとともに、なぜ「憲法」が国家の最高法規とされるかを理解することを目指す。次いで、日常生活の場面で生じる様々な紛争解決する手段としての裁判の意義、システムを学び、同時に法解釈の手法を考察する。以上の基本的な知識を修得した上で、日本国憲法の本質と構造を(明治憲法との比較を含め)大枠で理解するよう努める。							
<b>到達目標</b>							
1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。 2. 様々な基本的人権について概要を述べるができる。 3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。							
<b>授業の方法</b>							
パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。 各講義中に毎回コメント(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)をGoogleフォーム、クラスルーム等に提出する。 確認テストをGoogleフォーム等を利用して時間内に行う(全15回)。							
<b>ICT活用</b>							
Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし。							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要、法の基礎知識について学ぶ。	事前に教科書を購入し、「読者のみなさんへ」の部分を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文等を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」 「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」 「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えらるる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」「Theme17 民の声 vox Dei?——国会(2)」「Theme18 首相の選び方——内閣」「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交?——天皇」「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手續きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を!——地方自治」「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行／有斐閣		
<b>参考文献</b>		
講義中に適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
特になし。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	常見 裕子						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係があり、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」とも関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。

到達目標

1. ワードプロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なうことにより情報のアウトプットができる。
2. 表計算ソフトExcelを用いて基本的な計算や関数の使用、グラフ作成、データベースの操作を行うことができる。
3. ウェブサイトからデータを取得し、Excelを用いて情報の加工や分析ができる。
4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。
5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。

授業の方法

Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトによる操作やセキュリティと情報モラルに関する内容の理解については初回と試験時を除いて教科書会社が提供するeラーニングシステム(NESS)により各自が主体的に確認テスト問題を行う。

ICT活用

教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステム(NESS)を用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
eラーニングシステム(NESS)により確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの起動、画面構成を概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)	シラバスを読み、教科書のp30～p35とp42～p47, p49～p50を読んでおく。p53～p58は授業では行わないが読んでおいてください。(90分)	教科書のp51練習5を行う。タッチタイピングの練習を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。	教科書のp60～p67上半分とp250～p252を読んでおく。p80練習7の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3、§5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson1,2)。	教科書のp67下半分～p75上半分とp253～p257を読み、p255練習25を行っておく。(90分)	教科書のp80練習7を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3、§5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～4の問題を解く。(90分)
担当教員			
第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§2-STEP2のLesson2)【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術を習得する。(§5-STEP1のLesson3)。	教科書のp75下半分～p90とp258～p262上半分を読んでおく。p98練習8の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6、§5セキュリティ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§2-STEP2のLesson2)。【情報の分析評価】《Excel》表計算ソフトの概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§3-STEP1のLesson1)【セキュリティと情報モラル】cookie、パスワードの管理を習得する(§5-STEP1のLesson3)。	教科書のp92～p97, p100～p106とp262下半分～p264(90分)	教科書のp98練習8を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6、§3Excel-STEP2-同1～3、§5セキュリティ-STEP1-同5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			

第6回	【情報の分析評価】《Excel》データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。データの表示設定(文字・表示形式)(§3-STEP2のLesson1)を習得する。【セキュリティと情報モラル】ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書のp107～p118の上とp265～p267を読んでおく。(90分)	NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト1～3、§5セキュリティ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§3-STEP2のLesson2)。【セキュリティと情報モラル】著作権・知的財産権とはなにかについて知る(§5-STEP2のLesson1,2)。§2Word-Section2の試験(20問)を行います。	教科書のp118～p129とp268～p270(90分)	教科書のp122練習9を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト4～7、§5情報モラル-STEP2-確認テスト1～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》数式の入力方法・コピー、合計の計算、相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法、数学／三角関数を習得する。(§3-STEP2のLesson3)。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点について学修する(§5-STEP2のLesson2)。	教科書のp130～148とp271～p273を読んでおく。(90分)。	教科書のp137練習12を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト5～7、§5情報モラル-STEP2-確認テスト2～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§3-STEP2のLesson3)。あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する(教科書にはない)。グラフの要素、縦棒グラフの作成法を習得する(§3-STEP3のLesson1)。【セキュリティと情報モラル】個人情報の保護について学修する(§5-STEP2のLesson3)。	教科書のp149～p163とp274～p275を読んでおく。VLOOKUP関数について調べておく。(90分)	教科書のp152練習16を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト2、§5情報モラル-STEP2-確認テスト4～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第10回	【情報の分析評価】《Excel》円グラフの作成法、レーダーチャートの作成、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§3-STEP3のLesson1,2)。【セキュリティと情報モラル】ネットの危険性、ネチケットについて学修する電子メール利用のマナーについて学修する。(§5-STEP2のLesson4)。	教科書のp164～p176を読んでおく。教科書のp276～p279上半分を読んでおく。(90分)	教科書のp163練習17、p169練習18、p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト1と3、§5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			

第11回	【データの分析演習】《Excel》ウェブサイトからデータを取得する方法を学ぶ。また、そこで得られたデータを加工しデータを分析する方法を学ぶ。【セキュリティと情報モラル】暗号化、インターネット利用のマナーについて学修する(§5-STEP2のLesson4)。§3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を行います。	教科書のp279下半分～p282を読んでおく。NESSの§3-STEP2,STEP3確認テストを解く。(90分)	NESSの§5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【情報の分析】《Excel》データベース機能を理解し、基本的な操作である並べ替え、抽出等を修得する。データベースから集計表を作成できるピボットテーブル機能を修得する。【セキュリティと情報モラル】ネットコミュニケーションについて学修する(§5-STEP2のLesson5)。	データベース、ピボットテーブルについて調べておく。教科書のp283～p287を読んでおく。自身が使用しているネットコミュニケーションツールの特徴を調べておく。(90分)	NESSの§5情報モラル-STEP2-確認テスト7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§4-STEP2のLesson1)。§5 セキュリティと情報モラルSection5の試験(STEP1, STEP2合同20問)を行います。	NESSの§5情報モラル-STEP2-確認テスト1～7の問題を解く。教科書のp178, p181, p186～p210を読んでおく。(90分)	NESSの§4Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§4-STEP2のLesson2)。	教科書のp211～p234を読んでおく。(90分)	教科書のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの§4Powerpoint-STEP2-確認テスト4～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§4-STEP3のLesson2)。§4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を行います。	NESSの§4 Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。教科書のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラルMicrosoft365・Office2021対応／A出版		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。ネット通販では購入しないでください。また、メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		生命科学				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	有賀 早苗						

授業の位置づけ

科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。「解剖学」、「生理学」、「生化学」(健康栄養)、「解剖学I」、「解剖学II」、「生理学I」、「生理学II」(看護、リハビリ)、「免疫学」(看護)、「教科教育法 理科」(こども発達)と連携する教養科目である。

授業の概要

生命科学の内容は私たちの健康、医療、食生活、生活環境などの日常生活に密接に関わっているだけではなく、持続的な社会の発展や生物多様性保全など地球生態系にも関係するヒトがよりよく生きるための知識である。この授業科目では、専門科目の学習に発展・深化しうる身近なトピックスを取り上げながら、生物に共通した細胞・分子レベルの仕組みから生物の特性を知り、ヒトと生態系との共生を考える知識基盤を築くと共に、遺伝子操作・再生医療等の科学的基礎理解から健全な生命倫理観の醸成基盤も築いていく。高等学校で生物を履修しなかった学生にも十分理解できるように、初歩的な事項から、最先端研究まで、興味が広がるように解説する。

到達目標

生物が物質から成る細胞を単位に構成されることを理解する  
 遺伝情報に基づく生物に共通した流れであるセントラルドグマを理解する  
 細胞・分子レベルから癌等の疾患の原因を理解する  
 遺伝子操作・再生医療等の基本的な仕組みを理解する

授業の方法

本授業で学ぶべき内容をわかりやすく解説したパワーポイントスライドの映写により講義を進め、指定した教科書も参照しながら学ぶ。第2回目からは講義開始時に前回講義内容に関するクイズ(自己採点、解答解説はGoogleクラスルームに掲載、成績評価には含めない)を実施し、内容理解と筆記試験に向けた準備をしていく。  
 アクティブラーニングとして、最終回の講義では小グループでのディスカッションに基づく課題研究発表を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法			
授業内に実施・解説するクイズの問題・解答を、Googleクラスルームに掲示する。 2回の筆記試験に向けた練習問題・解答もGoogleクラスルームに掲示する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	科目ガイダンス: 本科目の位置づけ、概要、到達目標、授業方法・進め方、成績評価等について、シラバスに基づき説明する。アンケート等により、履修学生の高等学校までの生物学学習状況を確認する。 講義内容: 非生物と異なる生物の特性、分子・細胞レベルで生物を捉える共通原理(分子生物学のセントラルドグマ)、生物が物質から成ることを理解する。	シラバスをよく読んで、この科目で学ぶこと、学習目標等を把握し、また教科書のp. 2~6, p. 15を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、生物を構成する分子で最も多い水分子の意義を説明できるようにする(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第2回	分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、タンパク質について、基本構造と性質、生物・生命現象における機能・重要性について学ぶ。	教科書p. 7~8, p. 115を読み、疑問点・不明点を整理しておく。また、アミノ酸について簡単に調べておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質の変性について説明できるようにする(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第3回	分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、核酸(DNA、RNA)について、共通する構造を学び、さらにDNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して認識できるよう解説する。	教科書p. 11~15, p.19を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して、それぞれ説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第4回	分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、RNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。	教科書 p. 14~16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整理し、遺伝暗号コドンがなぜ3文字(3塩基)配列なのか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第5回	生物の最小構成単位である細胞について、基本構造を学び、原核生物・真核生物の違いを学ぶ。真核生物を構成する真核細胞がもつ細胞内小器官、特に細胞膜、核、ミトコンドリアについて、構造・機能を学ぶ。現代生物学では生物とはみなされないウイルスについても概要を学ぶ。	教科書p. 11, p. 12~16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整理し、なぜウイルスは現代生物学では生物とみなされないのか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第6回	遺伝情報の複製について、2本鎖DNAの半保存的複製の分子機構の基礎を学ぶ。細胞の生活環である細胞周期の中で、細胞分裂に先立つ特定の時期においてのみ遺伝情報の複製が行われること、また真核生物のDNA末端の繰り返し配列テロメアについても学ぶ。	教科書p.48～49, p. 55～56を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、真核生物のDNA末端複製問題とはどのようなことか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第7回	セントラルドグマに沿った遺伝情報の発現の流れについて、転写・翻訳の分子機構の基礎、発現のしくみから見た原核生物・真核生物の違いを学ぶ。	教科書p. 12～16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、また、第1回から第7回の講義内容、出題されたクイズの問題を復習する。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第8回	筆記試験A：第1回から第7回までの授業内容に関する筆記試験(90分程度)を実施する。試験答案回収の後、試験問題と解答の解説を行う。	授業ノートを整理して、第1回から第7回の講義内容、出題されたクイズの問題を復習する。(90分程度)	授業ノートを読み返して、筆記試験Aの解答解説を今一度確認し、特に自身が誤答だった問題について復習する。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第9回	生物の進化について、生物の歴史、ダーウィンの『進化論』から木村資生の『中立説』、分子時計、RNAワールド仮説などを通して、進化が進歩ではなく多様性の増加であることを学ぶ。人類の進化についても、ミトコンドリア・イヴ説や鎌状赤血球症の分布などから学ぶ。	木村資生の『中立説』について簡単に調べ、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、ミトコンドリア・イヴ説はどのようにして考えられたか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第10回	多細胞生物を構成する細胞は生殖細胞と体細胞物とに大別されることを学び、生殖細胞から多様な体細胞が生じる細胞分化の過程は遺伝情報発現調節によって実現されていることを学ぶ。遺伝情報発現調節の分子機構について、大腸菌オペロンの例から仕組みの基礎を学ぶ。また、従来の遺伝学だけでは説明のできないエピジェネティクスについても概要を学ぶ。	教科書p. 24～26, p. 173を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、エピジェネティクスとはどのようなことか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第11回	多細胞生物1個体に属するすべての細胞は同一ゲノムをもつことに基づいたクローン動物、iPS細胞の作製原理について学ぶ。一方、限られた遺伝子数で多様性を実現する遺伝子の再構成、および動く遺伝子トランスポゾンについて学ぶ。	教科書p.20～22, p. 62～65を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、iPS細胞とはどのようなものか説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第12回	細胞の増殖・分化・死・癌化の相関性について学び、多細胞生物の宿命である癌の発症について、原因・分子機構の概略を学ぶ。多細胞生物の発生・個体維持に不可欠な細胞増殖・細胞分化・細胞死の制御機構が破綻した場合に細胞が癌化することを学ぶ。細胞癌化に関わる遺伝子群(原癌遺伝子群)は細胞増殖・分化・死の調節・制御に必須な遺伝子群であることを学ぶ。	教科書p. 48～57を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、原癌遺伝子群とはどのような遺伝子群か説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第13回	遺伝子そのものや発現調節を人工的に操作する遺伝子操作・バイオテクノロジーについて、方法の基礎を成す技術と、新たな展開を生んだPCR、ゲノム編集などの技術革新について学ぶ。 翌週授業で実施する筆記試験Bについて、および翌々週授業で実施のグループ発表の解説も行き、グループ編成等を伝える。	教科書p. 18, p. 23, p. 66～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、PCRとは何を利用したどのような技術か説明できるようにする。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第14回	筆記試験B: これまでの全授業内容に関する筆記試験を実施する。試験答案回収後、試験問題と解答の解説を行う。 翌週授業でのグループ発表に向け、グループに分かれて準備作業を開始する。	授業ノートを整理して、第1回から第7回、第9回から第13回までの講義内容、出題されたクイズの問題、および練習問題を復習する。(90分程度)	グループ発表に向けた準備作業を行う。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第15回	グループ発表: 設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。 課題レポートについて解説する。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	グループ発表を踏まえ、課題レポートを作成する。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
みんなの生命科学 第2版 北口哲也・塚原伸次・坪井貴司・前川文彦 化学同人 ISBN 9784759820997		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業療法専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。                      数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。                      数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。                      数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。                      実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI((Artificial Intelligence: 人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【言語生成系AIの活用の留意点】近年急速に発展したChatGPT等の言語生成系AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	教科書の第1講の1、第1講の2、第2講、第3講の1を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データを説明する方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数のデータの間の関係を調べるための散布図からわかること、相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	教科書の第6講を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【AIの手法1:教師あり学習(回帰)】AIに含まれる分析技術を理解する。機械学習の学習方式の違い(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	教科書の第5講の4のp74-p75, 第14講の1,第14講の2,第14講の6を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。	教科書の第14講の3のp216,第14講の4のp76-p77を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3:教師なし学習】教師なし機械学習の手法のうち、クラスタリング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスタリングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4:ニューラルネットワーク】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教科書の第14講の3のp217,第14講の7のp233,第5講の4のp226-p227を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第6回	<p>【社会におけるAIの利活用の現場】                  実際の事例を紹介しながら、データの有用性と人の価値観を組み合わせたアプローチについて学ぶ。一般的なデータサイエンスのアプローチを通して業務改善を行った事例や、それによる変化などを紹介する。                  【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】                  データの共有・伝達に関して、FOOD &amp; LIFE COMPANIES(スシロー)での事例を元に、DWH『SnowFlake』でのデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。                  【データ・AI利活用の最新動向】                  最新のAI利活用事例として、『2023年はAIブーム』というテーマをもち、その社会の変化について予測や代表</p>	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第7回	<p>【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する                  【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI(Ethical:倫理的、Legal:法的、Social Issues:社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。</p>	教科書の第7講の2のp99,第8講を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	<p>【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題(AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。</p>	教科書の第7講を読んでおく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0		
その他	0		
<b>教科書</b>			
はじめてのAIリテラシー／岡嶋裕史、吉田雅裕／技術評論社			
<b>参考文献</b>			
AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

なし

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>インターネットから目的とするデータを取得することができる。                      データを分析できる形に整えることができる。                      データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。                      データの特徴を説明することができる。                      任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<p>【データの取得】e-Statを利用してインターネットからデータを取得する実践を行う。</p> <p>【データを扱う方法】取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。</p> <p>【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。</p>	教科書の第6講の2を復習し、Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	<p>【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。</p> <p>【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。</p>	教科書の第6講の4を復習しておくExcelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	<p>【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。</p> <p>【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。</p>	教科書の第11講の4～6を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第4回	<p>【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。</p> <p>【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。</p> <p>【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。</p>	教科書の第11講の7と第12講の3～4を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	<p>【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。</p>	教科書の第14講の6を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	教科書の第14講の5を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。また、k-means法によるクラスタリングを体験する。 【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	主成分分析およびクラスタリング手法であるk-means法について調べておく。教科書の第5講の4のp.76,p.77を復習しておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教師あり学習における分類の各手法の特徴およびニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。	
その他	0	なし	
教科書			
はじめてのAIリテラシー／岡嶋裕史、吉田雅裕／技術評論社(後期「数理・データサイエンス・AI入門」の教科書)			
参考文献			
AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社			
履修条件・留意事項等			

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。  
教科書は他の教科でも使用しているものなので、重複して購入しないように注意してください。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						

授業の位置づけ

「統計と社会調査法」(健康栄養学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻、地域未来学科)、「医療統計学」「理学療法研究」(リハビリテーション学科理学療法学専攻)と連携している教養科目である。

授業の概要

主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数値的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。

到達目標

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。  
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。  
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～p136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「パートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変数の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
<b>教科書</b>		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
特になし		
<b>備考欄</b>		
特記事項なし		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Patrick Hall						
<b>授業の位置づけ</b>							
地域未来学科のディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと関係がある科目である。							
<b>授業の概要</b>							
本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを習得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行うために必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。							
<b>到達目標</b>							
Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)							
<b>授業の方法</b>							
This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.							
<b>ICT活用</b>							
If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
Not Applicable							

課題に対するフィードバックの方法			
The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (25 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.1 (20minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 1 part II p. 17-19 (20 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (20 Min)
担当教員			
第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (20 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (20 Min)
担当教員			

第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (20 Min)
担当教員			
第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (25minutes)	Review vocabulary and concepts (20 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (25 Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (20 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare p41-43 (20 Min)
担当教員			
第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (20 Min)
担当教員			

第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (20 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (20 Min)
担当教員			
第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (25 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (20 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! 25 minutes or more...	Prepare for final exam!! 20 minutes or more
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (25 minutes if necessary)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (up to 20 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
<b>教科書</b>		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
<b>参考文献</b>		
Handouts will be given in class		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class		
<b>備考欄</b>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬 哲也						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語等の説明において、必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けることを目指す授業である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することができるようになることを目的とする。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的語彙に慣れ親しむことができる。</li> <li>○日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。</li> <li>○具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。  ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>中学校・高校で17年間、英語教員として指導した経験を生かす。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出してきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出ってきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出ってきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出ってきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出ってきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第6回	<p>◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble                  ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。</p>	<p>・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)</p>	<p>・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)</p>
担当教員	相馬 哲也		
第7回	<p>◎Review1 (Unit1-6)                  ・Unit1からUnit6までの復習をする。</p>	<p>・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)</p>	<p>・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)</p>
担当教員	相馬 哲也		
第8回	<p>◎Unit7 Do you have a reservation?                  ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。</p>	<p>・Unit7 を事前に読んでおくこと。(25分)</p>	<p>・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)</p>
担当教員	相馬 哲也		
第9回	<p>◎Unit8 Wi-Fi is available in this area.                  ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。</p>	<p>・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)</p>	<p>・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)</p>
担当教員	相馬 哲也		
第10回	<p>◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant.                  ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。</p>	<p>・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)</p>	<p>・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)</p>
担当教員	相馬 哲也		

第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(35分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(10分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(60%)、課題(20%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング		
<b>参考文献</b>		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	曹 順姫						
<b>授業の位置づけ</b>							
この授業は韓国語の文字(ハングル)及び基礎会話を学ぶ科目である。k-pop・kカルチャーが盛んな昨今、グローバル社会の中で世界の人々と交流するためのコミュニケーション能力を備えるための基礎韓国語を学ぶ。							
<b>授業の概要</b>							
韓国語と日本語は似ていて比較的学び易いといわれるが、両者は文字や発音の面ではかなり異なる言語ある。具体的には、基本子音、基本母音の読み書きを学び、激音および濃音の子音、合成母音の順で覚える。課ごと基本会話を取り入れながら、パッチムやそれによる発音変化について学ぶ。							
<b>到達目標</b>							
文字(ハングル)を正しい発音で読め、書けるようにする。 簡単な基本会話を身につける。							
<b>授業の方法</b>							
パワーポイントや視覚教材、メディアなどを用いる 学生の積極的な参加を要する実技形式の授業である。							
<b>ICT活用</b>							
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
Google Classroomを用いて実施した、理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①授業ガイダンス(授業の進行、留意点、成績評価など) ②第00課 韓国語とハングル ③簡単な自己紹介練習	なし	教科書p8～p9の復習 自己紹介を覚える。(90分)
担当教員			
第2回	第1課 基本母音 基本会話①	第1回目の授業内容の復習(90分) 教科書p10～p11	基本母音を覚える。(90分) 授業中に学んだ単語の暗記と課題
担当教員			
第3回	第2課 基本子音字(平音①) ・有声音について 小テスト①	第2回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p12～	基本子音字(平音①)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第4回	第2課 基本子音字(平音②) ・有声音化について②	第3回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p13～	基本子音字(平音②)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第5回	第2課 基本子音字(激音) 基本会話② 小テスト②	第4回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p13～	基本子音字(激音)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第6回	第3課 合成母音 基本会話③	第5回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p16~p17	合成母音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第7回	第3課 合成子音 基本会話④ 小テスト③	第6回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p20~p21	合成子音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第8回	第5課 パッチム(終声)	第7回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p22~23	合成子音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第9回	仮名のハングル表記 基礎会話⑤ 小テスト④	第9回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p25~	仮名のハングル表記と課題。 (90分) 名前をハングルで書く。
担当教員			
第10回	第6課 連音化 1文字パッチムの連音化 2文字パッチムの連音化と連音化の例外	第9回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p26~p27	連音化の単語の暗記と課題。 (90分)
担当教員			

第11回	連音化の応用(k-pop通して学ぶ) 基礎会話⑥ 小テスト⑤	第10回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p28練習問題1.2	韓国語の歌詞の応用と課題。(90分)
担当教員			
第12回	韓国について学ぶ ソウルの地下鉄 韓国プチ観光	ハングル読みの復習 教科書p19・p29を読む。(90分)	ハングル読みの課題。(90分)
担当教員			
第13回	第7課 アンニョンハセヨ? 私は日本人です。① 助詞(は)、名詞+です・ですか	ハングル単語の復習 教科書p30~p31	助詞(は)、名詞の です・ですかの復習課題 進出名詞、国名の復習
担当教員			
第14回	第7課 アンニョンハセヨ? 私は日本人です。② 鼻音化、自己紹介:と云います/申します。 小テスト⑥	第13回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p32~p33	発音の変化の復習と課題。(90分) 自己紹介の文の暗記。
担当教員			
第15回	第7課 アンニョンハセヨ? 私は日本人です。③ 会話文⑦と国名と職業の色々 前期復習	第14回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p34~p35	第7課の復習。 前期復習課題。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
「教養韓国語 初級」金智賢 著:朝日出版社		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
授業15回中5回以上の欠席は単位が出せません。(5回まで)		
<b>備考欄</b>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	曹 順姫						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>韓国語Ⅱは韓国語Ⅰより、一步進んだ発話と基礎文法を学ぶ。 グローバル社会の中で世界の人々と交流するためのコミュニケーション能力を備えるための初級韓国語を学ぶ。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>「韓国語Ⅰ」同様に教科書に沿って文法を学び会話力を身につける。本授業では、基本的なコミュニケーションを可能なものにするための手助けになり、話したい内容をより豊かに表現できるよう正しい発音で音読したり、学んだ表現を用い会話したりする練習をも行う。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>韓国語で趣味や好きなことなどを話せ、相手にも聞けるようにする。韓国のwebサイトや新聞から情報を入手できるようにする。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントや視覚教材、メディアなどを用いる。 学生の積極的な参加を要する実技形式の授業である。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
なし							

課題に対するフィードバックの方法			
Google Classroomを用いて実施した、理解度確認テストおよび課題の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業ガイダンス 前期復習	前期復習(90分)	授業内容の復習と課題。(90分)
担当教員			
第2回	第8課 これは何ですか。① こそあど、体言の否定、助詞 の、も 家族の呼称	第1回目の授業内容の復習(90分) 教科書p36～p38	こそあど、体言の否定、助詞 の、も 家族の呼称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第3回	第8課 これは何ですか。② 会話⑧、基本名詞 小テスト①	第2回目の授業内容の復習(90分) 教科書p39～p42	会話⑧、基本名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第4回	第9課 学校はどこにありますか。① 助詞 が、に、と、存在詞 ある/いる・ない/いない	第3回目の授業内容の復習(90分) 教科書p44～p47	助詞 が、に、と、存在詞 ある/いる・ない/いない 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第5回	第9課 学校はどこにありますか。② 位置名詞、会話⑨、場所名詞 小テスト②	第4回目の授業内容の復習(90分) 教科書p48～p49	会話⑨ 場所名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第6回	第10課 午後に何をしますか。① 用言+です/ます 助詞 時間 に、場所 に、で、を	第5回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p50～p53	用言+です/ます 助詞 時間 に、場所のに、で、を 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第7回	第10課 午後に何をしますか。② 会話⑩ 基本動詞 と反対語 小テスト③	第6回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p54～p55	会話⑩ 基本動詞 と反対語 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第8回	第11課 誕生日はいつですか。① 漢数詞(年月日、電話番号)、曜日	第7回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p56～p58	漢数詞(年月日、電話番号)、曜日 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第9回	第11課 誕生日はいつですか。② 後置否定形、会話⑪ 小テスト④	第8回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p58～p61	後置否定形、会話⑪ 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第10回	第12課 どちらにお住まいですか。① 尊敬形、口語体助詞 と、副詞	第9回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p62～p64	尊敬形、口語体助詞 と、副詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第11回	第12課 どちらにお住まいですか。② 会話⑫ 体の名称 小テスト⑤	第10回目の授業内容の復習(90分) 教科書p65～p67	会話⑫ 体の名称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第12回	第13課 どんな映画が好きですか。① 用言のヘヨ体	第11回目の授業内容の復習(90分) 教科書p68～p70	用言のヘヨ体 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第13回	第13課 どんな映画が好きですか。② 前置否定形、会話⑬、趣味名詞 小テスト⑤	第12回目の授業内容の復習(90分) 教科書p71～p73	前置否定形、会話⑬、趣味名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第14回	韓国文化を学ぶ:映画鑑賞	第13回目の授業内容の復習(90分)	感想文を書く
担当教員			
第15回	第14課 固有数詞 前期復習	前期復習(90分) 教科書p74～p75	前期復習 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
「教養韓国語 初級」金智賢 著:朝日出版社		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
授業15回中5回以上の欠席は単位が出せません。(5回まで)		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		人間科学部 地域未来学科					
<b>区分</b>		教養科目 スポーツと健康					
<b>科目名</b>		生涯スポーツ I				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2024年度前期	<b>区分</b>	演習	<b>単位</b>	1
<b>担当教員</b>	平岡 英樹						

**授業の位置づけ**

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。  
ディプロマポリシーの「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと関係がある科目である。

**授業の概要**

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

**到達目標**

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

**授業の方法**

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。  
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

**ICT活用**

なし

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関する注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
特になし、必要に応じて資料を配付		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		人間科学部 地域未来学科					
<b>区分</b>		教養科目 スポーツと健康					
<b>科目名</b>		生涯スポーツⅡ				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2024年度後期	<b>区分</b>	演習	<b>単位</b>	1
<b>担当教員</b>	平岡 英樹						

**授業の位置づけ**

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。  
ディプロマポリシーの「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと関係がある科目である。

**授業の概要**

参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。

**到達目標**

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

**授業の方法**

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。  
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

**ICT活用**

なし

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。(20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第6回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第7回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(3) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンピプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	ニュースポーツ(5) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	ニュースポーツ(6) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
特になし、必要に応じて資料を配付		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
<b>備考欄</b>		
(Blank)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育学概論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」とも関係し、教育学及び社会教育の基礎知識・技能を身につけるための基礎科目である。

授業の概要

本科目は、教育学の学習・研究活動を進めるに当たって、コンピュータやインターネット、オンライン会議等のICTの技能の修得や積極的に活用する態度の育成をはじめ、文脈を踏まえた文章の読解や要約、それらに基づいた主張の明確化と効果的な表現方法、特に聴くことを重視したコミュニケーションスキル、異なる考えへの共感的な理解や合意形成の方法等のミーティングマネジメント、問題解決の考え方等、主体的な学習・研究活動のために不可欠なツールの獲得を目的とする。

到達目標

- ① 学ぶことの意義を説明できる。
- ② 参加型の学びの意義を説明できる。
- ③ 他者の話を共感的に聞きながらグループワークに参加できる。
- ④ 文書作成やプレゼンテーションソフト等の基本を理解し、相手に伝わる資料を作ることができる。

授業の方法

・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
- ・Google classroomのform機能やWebアプリのアンケート機能を活用してリアルタイムに学生の考えの把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広い知識を有している。この経験を活かし、学びの構造をはじめ、これからの時代に求められる学びや具体的な支援方策等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりシートやWebアプリを活用し、受講生同士の感想や気付きについての意見交換やフィードバックの時間を設ける。</li> <li>・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。</li> </ul>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 共に学ぶ仲間を知り、教育と学びについて理解を深める。	教育・学習・学びについて調べ、自分なりのイメージを持って授業に望む(90分)。	教育・学習・学びなどについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	学びの基礎1 教育や学びの場における望ましいコミュニケーションの在り方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	教育や学びの場における望ましいコミュニケーションの在り方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	学びの基礎2 体験学習法やふりかえり、わかちあいの意義について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	体験学習法やふりかえり、わかちあいの意義についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第4回	学びの基礎3 傾聴や適切なリアクションなど、学びにおける聴く力の重要性について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内に提出するとともに発表の練習を行う(90分)。
担当教員			
第5回	学びの基礎4 文脈を読み、簡潔に考えを表現する話し方や伝え方について理解を深める。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	文脈を読み、簡潔に考えを表現する話し方や伝え方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第6回	学びの基礎5 Web検索を用いて、知りたい情報を的確に収集・整理する方法や情報モラルの重要性について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	Web検索を用いて、知りたい情報を的確に収集・整理する方法や情報モラルの重要性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第7回	学びの基礎6 プレゼンテーションソフトを用いた資料づくりの方法について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内に提出するとともに発表の練習を行う(90分)。
担当教員			
第8回	学びの基礎7 資料や考えを簡潔に要約し、共感を得る資料づくりの方法を学ぶ。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	講義内課題について、フィードバックされたことを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	学びの場と場づくり1 参加型の学び(ワークショップ)を体験し、意義や効果についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	参加型の学び(ワークショップ)を体験し、意義や効果についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第10回	学びの場と場づくり2 参加型の学びにおけるファシリテーターの役割やファシリテーション技術の基礎を理解する。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	参加型の学びにおけるファシリテーターの役割やファシリテーション技術の基礎についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第11回	学びの場と場づくり3 参加型の学びにおける様々な思考ツールを学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	参加型の学びにおける様々な思考ツールについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	学びの場と場づくり4 参加型の学びの場のデザインについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	参加型の学びの場のデザインについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第13回	学びの場の応用1 問題と課題の違いや会議の意義合意形成の方法について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	問題と課題の違いや会議の意義合意形成の方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	学びの場の応用2 模擬的な会議を通して、望ましい会議の在り方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内に提出するとともに発表の練習を行う(90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり レポートを発表し、講義全体をふりかえるとともに、学びや気づきを共有する。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	教育学概論 I を通しての気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 40% ②授業外レポート3回 30% ③授業内の課題2回 20% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
・人間関係トレーニング 私を育てる教育への人間学的アプローチ 津村俊充・山口真人 編 ナカニシヤ出版 ・対話を生み出すKP法 川嶋直 著 みくに出版 ・ファンリテーション革命 参加型の場づくりの技法 中野民夫 著 岩波書店 ・わかりあえないことから 平田オリザ 著 講談社 ※その他授業内で適宜紹介する		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。		
<b>備考欄</b>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育学概論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						
<b>授業の位置づけ</b>							
ディプロマ・ポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」とも関係し、教育学及び社会教育の基礎知識・技能を身につけるための基礎科目である。							
<b>授業の概要</b>							
本科目は、教育学研究の基礎コースとしての位置づけである。「教育学概論Ⅰ」での学びを基盤として、教育の目的、教育と学習、公教育と私教育、学校教育と社会教育、生涯学習社会における教育の使命や役割、教育に対する社会的な要請・課題の把握、生涯各期の学習課題、学習者主体の学びの促進と支援の在り方等、より専門的な教育学の探求に向けて、大切かつ必要な知識・論理の理解と前向きな探求姿勢の修得を目的とする。							
<b>到達目標</b>							
①教育が法令に基づき行われていることを理解し、説明できる。 ②教育活動の現状や問題点を理解し、課題点や解決のアイデアと関連付けることができる。 ③適切な資料を探し出せるよう、検索ソフト等を操作できる。 ④多様な考えを踏まえた、自分らしい教育観を形成し、述べることができる。							
<b>授業の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。</li> <li>ゲストによる講話も予定する。(オンラインの可能性あり)</li> </ul>							
<b>ICT活用</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。</li> <li>Google classroomのform機能やWebアプリのアンケート機能を活用してリアルタイムに学生の考えの把握やフィードバックを行う。</li> </ul> ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話を行う。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広い知識を有している。この経験を活かし、教育活動の法的根拠や現状と課題をはじめ、教育現場と教育行政の連携等について指導する。							

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりシートやWebアプリを活用し、受講生同士の感想や気付きについての意見交換やフィードバックの時間を設ける。</li> <li>・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。</li> </ul>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 公教育が日本国憲法や教育基本法に基づいて行われていることについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	公教育が日本国憲法や教育基本法に基づいて行われていることについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	教育関係法令について 公教育の法体系や仕組みについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	公教育の法体系や仕組みについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	生涯学習について 生涯学習や生涯学習社会の実現に向けた基本的な考え方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	生涯学習や生涯学習社会の実現に向けた基本的な考え方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第4回	学校教育の現状と課題 学校で行われている教育活動のや生徒指導の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	学校で行われている教育活動のや生徒指導の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	学校教育の現状と課題 学校教育における地域・家庭との連携の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内に提出するとともに発表の練習を行う(90分)。
担当教員			

第6回	学校教育の現状と課題 学校種間連携、特に幼保小連携の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	学校種間連携、特に幼保小連携の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第7回	社会教育の現状と課題 社会教育行政の仕組みや社会教育主事の役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	社会教育行政の仕組みや社会教育主事の役割についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	社会教育の現状と課題 公民館、図書館、博物館における教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	公民館、図書館、博物館における教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	社会教育の現状と課題 青少年教育施設における教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	青少年教育施設における教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第10回	社会教育の現状と課題 青少年教育施設における教育活動とボランティアの役割についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内に提出するとともに発表の練習を行う(90分)。
担当教員			

第11回	社会教育の現状と課題 民間が取り組む社会教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	民間が取り組む社会教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	教育学概論のまとめ 地域課題の解決に向けた教育活動の現状や課題について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第13回	教育学概論のまとめ 社会や地域の要請(ニーズ)に応えるコーディネーターの役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内に提出するとともに発表の練習を行う(90分)。
担当教員			
第14回	教育学概論のまとめ 今日的な教育の課題と解決手段についてグループで討議を行う。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	今日的な教育の課題と解決手段についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり レポートを発表し、講義全体をふりかえるとともに、学びや気づきを共有する。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	教育学概論Ⅱを通しての気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり(15回) 40% ②授業外レポート2回 各15% 計30% ③15回目の課題発表 20% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
・生涯学習・社会教育行政必携 令和6年版 生涯学習・社会教育行政研究会 編集 第一法規出版 ・生涯学習の支援 伊藤俊夫 編 実務教育出版 ・学ぶ力 河合隼雄 ほか著 岩波書店 ・北海道立生涯学習推進センターHP ※その他授業内で適宜紹介する		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		生涯学習概論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している(知識・技能)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「生涯学習概論Ⅱ」へとつながる科目である。

授業の概要

本科目では、生涯学習の概念を歴史的に捉えながら、その意義と成り立ちを概観する。従来、教育は学校教育に限定的に捉えられる傾向があったが、生涯学習は生まれてから高齢期に至るまで、生涯を通じた教育・学習の在り方を構想するものといえる。学ぶことが人間の生存にとって不可欠な要件であり、普遍的な価値を有していることを理解する。また、生涯学習社会の基盤となる社会教育について、戦後社会教育実践における学習観を辿りながらその意義を理解する。

到達目標

- ① 生涯学習の意義を説明することができる。
- ② 生涯学習を支える社会教育の意義を説明することができる。

授業の方法

配布資料を用いた講義形式で行う。受講生の予定を調整した上で、学外での現地学習を予定している。

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の社会教育実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
webアプリを活用してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「学習権宣言」の内容を検討した上で、人間の生存と学びの関係を考える	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
第2回	生涯学習の基礎的理解～生涯学習の概念について学ぶ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
第3回	社会教育の基礎的理解～社会教育の概念について学ぶ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
第4回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その1 公立夜間中学の現状	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
第5回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その2 自主夜間中学の現状と教育内容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			

北海道文教大学 人間科学部 地域未来学科

第6回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その3 現地学習(見学～札幌市内の自主夜間中学への訪問を予定)	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第7回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その4 現地学習(札幌市内の自主夜間中学の代表者へ聞き取りを予定)	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その5 現地学習の振り返りと共有	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	不登校の児童生徒の教育保障 その1 不登校の子どもの現状～札幌市内を中心に	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第10回	不登校の児童生徒の教育保障 その2 子どもの教育保障～日本における教育の枠組みを問う	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第11回	不登校の児童生徒の教育保障 その3 不登校の子どもの学びの場と教育内容	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	フリースクールにおける教育～事例検討:フィールドワークを予定しているフリースクールの教育内容と方法を学ぶ。後半は、現地学習(札幌市内のフリースクール訪問を予定)で行う調査内容の検討。	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第13回	フリースクールにおける教育～現地学習(札幌市内のフリースクールを予定)。教育内容の観察とフリースクールスタッフへの聞き取り。	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	フリースクールにおける教育～現地学習の振り返り、調査内容の共有。	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ～自主夜間中学とフリースクールの事例から生涯学習の意義と生涯学習を支える社会教育の意義についてまとめる。	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート60%、リアクションペーパー30%、授業参加の態度10%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
社会教育推進全国協議会編「社会教育・生涯学習ハンドブック第9版」、エイデル研究所		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		生涯学習概論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している(知識・技能)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「生涯学習支援論」へとつながる科目である。

授業の概要

本科目では、人間の発達・成長、自己実現と生涯学習の関連と社会における諸課題に対し、共同による学習実践がどのような役割を果たしてきたのかを検討する。日本における生涯学習は、国際的な動向とも連動している。講義の後半は、国際的な生涯教育・生涯学習思想の展開と成人学習論の理論的枠組みの理解を目指す。

到達目標

- ① 生涯学習の概念、政策の展開を説明することができる。
- ② 社会教育の概念と歴史、戦後の社会教育の特徴を説明することができる。
- ③ 日本の社会教育実践史、国際的な成人学習論の展開を説明することができる。

授業の方法

教科書を用いた講義形式で行う。必要に応じて映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でアクションペーパーを配布する。アクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。第1回と第12回にグループワークを行い、理解を深める。

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の社会教育実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
webアプリを活用してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「生涯学習の基礎的理解」①グループワーク～生涯学習とは何か？	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	「生涯学習の基礎的理解」②日本における生涯教育論の導入と政策の展開	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	「生涯学習の基礎的理解」③生涯学習政策の動向と展開	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第4回	「生涯学習の基礎的理解」④生涯学習支援の取り組み	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	「生涯学習の基礎的理解」⑤成人学習者の理解	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第6回	「社会教育の基礎的理解」①社会教育の概念	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第7回	「社会教育の基礎的理解」②社会教育の歴史	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	「社会教育の基礎的理解」③社会教育の法制度	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	「社会教育の基礎的理解」④社会教育の施設と職員	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第10回	「社会教育の基礎的理解」⑤社会教育主事と社会教育士	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第11回	「成人学習論の展開」①社会教育の思想と実践の系譜～国際的な動向	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	「成人学習論の展開」②生涯学習論と学習権宣言～学習権宣言の成り立ちを学ぶ グループワーク	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第13回	「成人学習論の展開」③生涯学習論と学習権宣言～学習権宣言の内容を検討する	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	「成人学習論の展開」④パウロ・フレイレの教育思想(その1)～被抑圧者の教育学―人間化の課題をめぐって	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第15回	「成人学習論の展開」⑤パウロ・フレイレの教育思想(その2)～銀行型教育と課題提起教育について まとめ～14回の授業の振り返り	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート60%、リアクションペーパー30%、授業参加の態度10%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
小林 繁・平川景子・片岡 了著「生涯学習概論 学び合うコミュニティを支える 第3版」、エイデル研究所		
<b>参考文献</b>		
授業内で適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育心理学 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	石垣 則昭						

授業の位置づけ

教育心理学 I は、教育学及び社会教育の基礎知識を身につける教育基礎に位置し、ディプロマポリシーの、「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯に渡り学び続ける教養を有している(知識・技能)」、「地域社会における意欲かつ主体的のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献する(関心・意欲・態度)」に対応し、専門・専門基礎科目と連携している教養科目である心理学概論と関連を重視する。

授業の概要

本科目では、人間の発達過程および特徴についての心理学の基礎理論を学ぶとともに、発達段階をふまえての主体的な学習を支える指導の在り方やクラス集団形成について学ぶ。また、保育や教育現場で生じる様々な現象に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処法を見つけ出す力を身に付けることを目的に講義を行う。

到達目標

①学習者の主体的な学習活動を支える教育心理学 I の基礎的な知識を身につけ他へ説明できる。(知識・技能)②教育心理学 I による発達の特徴を理解し、個や集団に応じた教育の在り方を理解し学習内容を深め他へ説明できる。(思考・判断・表現)③実社会で求められる社会的貢献力の要素を協同により構造化するため、能動性を喚起し学習内容を深め、広げ他へ説明できる。(関心・意欲・態度)

授業の方法

授業の到達目標を達成するため、説明と演習の知的生産交流により授業を進める。受講者の学習への主体化を図るため、ハイブリッド型(ICTの活用と対面学習)を中心にアクティブラーニングにより授業を進める。毎時間、400字~700字及程度で作成する学習レポートを授業中クラスルームより送信、学習終了前に完成させ返信する。その後、採点し返却する。あわせて14回目に小テスト(30点満点)を実施し、総合的に学習評価を行う。

ICT活用

毎時間のレポートの作成、FAMアプローチによる授業評価などGoogleクラスルームの活用による教師と学生の双方向による授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

北海道内の公立中学校の校長12年の実務経験と教育及び心理学理論により教職員と共に生徒指導上の課題が山積する学校の改善を図り、生徒の人間関係力の育成、学力向上を中心に様々な教育成果をあげ数たびメディアで全国で紹介された。また校長在任中より現在までの間、北海道内外の保幼小中高等学校、特別支援学校、医療法人、民間企業へ「職場のメンタルヘルスの保持・増進」社会心理学による「職場の人間性」「ソーシャルエモーショナルラーニング(SEL)」など研修会の講師を務めている。さらに今日教育問題に対応するため発達心理学を起点にソリューション・フォーカスト・アプローチ(SFA)、選択理論、認知行動、現実療法などの心理理論により各種研修会の講師を務めている。さらに心理分析により学校問題委員、いじめ重大調査委員長、特別支援委員をはじめ北海道内外の各種教育関係委員及び相談活動に応じている。

課題に対するフィードバックの方法			
質問は授業中、クラスルームでのレポート提出時とあわせ随時受けつけ、内容により受講者全員への還元を図る。また毎時間、授業への自己評価、相互評価さらに学習レポートを中心とする学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ルーブリック評価による評価基準、授業規律重視の授業の意義の説明、教育心理学Ⅰとは何か。教育心理学Ⅰを学ぶ意義が理解できる。	教育心理学とは何かについて調べ学習に臨む。(90分)	教育心理学Ⅰとは何か。教育心理学Ⅰを学ぶ意義を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第2回	エリック・エリクソンの八つの段階で異なる課題や適応による心理社会的発達理論が理解できる。	エリック・エリクソンの八つの段階で異なる課題や適応による心理社会的発達理論を調べ学習に臨む。(90分)	エリック・エリクソンの八つの段階で異なる課題や適応による心理社会的発達理論を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第3回	ジャン・ピアジェの理論である子どもたちが知識を構築し発展させる過程である認知発達理論が理解できる。	ジャン・ピアジェの理論である子どもたちが知識を構築し発展させる過程である認知発達理論を調べ授業に臨む。(90分)	ジャン・ピアジェの理論である子どもたちが知識を構築し発展させる過程である認知発達理論を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第4回	道徳的判断の発達理論を提唱したコールバーグとギリガンの道徳発達段階論と道徳教育の理論が理解できる。	道徳的判断の発達理論を提唱したコールバーグとギリガンの道徳発達段階論と道徳教育の理論を調べ学習に臨む。(90分)	道徳的判断の発達理論を提唱したコールバーグとギリガンの道徳発達段階論と道徳教育の理論を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第5回	学習行動への心理的理解としての古典的条件付けとオペラント条件づけが理解できる。	学習行動への心理的理解としての古典的条件付けとオペラント条件づけを調べ授業に臨む。(90分)	学習行動への心理的理解としての古典的条件付けとオペラント条件づけを整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		

第6回	学習の動機づけとしての外発的動機付けと内発的動機付けの達成動機理論が理解できる。	学習の動機づけとしての外発的動機付けと内発的動機付けの達成動機理論を調べ授業に臨む。(90分)	学習の動機づけとしての外発的動機付けと内発的動機付けの達成動機理論を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第7回	学習理論としての記憶のメカニズムへの理解、問題解決型学習の意義と進め方が理解できる。	学習理論としての記憶のメカニズムへの理解、問題解決型学習の意義と進め方を調べ授業に臨む。(90分)	学習理論としての記憶のメカニズムへの理解、問題解決型学習の意義と進め方を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第8回	学習集団の諸理論を考察し、教育活動における意義が理解できる。	学習集団の諸理論を考察し、教育活動における意義を調べ授業に臨む。(90分)	学習集団の諸理論を考察し、教育活動における意義を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第9回	学習コミュニティの意義と形成、活用が理解できる。	学習コミュニティの意義と形成、活用を調べ授業に臨む。(90分)	学習コミュニティ形成の意義と形成、活用を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第10回	障害のある児童、生徒、成人の心理と包括的アプローチが理解できる。	障害のある児童、生徒、成人の心理と包括的アプローチを調べ授業に臨む。(90分)	障害のある児童、生徒、成人の心理と包括的アプローチを整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		

第11回	集団不適應におかれている心理的状況への理解と対応、 予防が理解できる。	集団不適應におかれている心理的状況への理解と対応、 予防を調べ授業に臨む。(90分)	集団不適應におかれている心理的状況への理解と対応、 予防を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第12回	学習者個々のニーズへの理解と柔軟で個別的サポートの 基本が理解できる。	学習者個々のニーズへの理解と柔軟で個別的サポートの基本を 調べ授業に臨む。(90分)	学習者個々のニーズへの理解と柔軟で個別的サポートの基本を 整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第13回	教育(学習)評価の目的と意義、教育(学習)評価が学習者 に与える心理的影響が理解できる。	教育(学習)評価の目的と意義、 教育(学習)評価が学習者に与 える心理的影響を調べ授業に 臨む。(90分)	教育(学習)評価の目的と意義、 教育(学習)評価が学習者に与 える心理的影響を理解し整理す る。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第14回	学習のまとめである小テストを行い、心理分析理論に基づ くこども理解支援ツール「ほっと」(こども理解支援ツール)を 概観し活用の意義が理解できる。	学習のまとめである小テストの学 習準備を行い、心理分析理論に 基づく「ほっと」(こども理解支援 ツール)とは何か調べ授業に臨 む。(90分)	学習のまとめである小テストの振 り返しを行い、心理分析理論に 基づく「ほっと」(こども理解支援 ツール)の活用の意義を整理す る。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第15回	学習者の学習意欲向上の諸モデルへの理解と学習者の 心理を概観し、教育心理学 I の全体を振り返り学習のまと めができる。	学習者の学習意欲向上の諸モ デルへの理解と学習者の心理を 調べ、教育心理学 I の学全体 を振り返り授業に臨む。(90分)	学習者の学習意欲向上の諸モ デルへの理解と学習者の心理を 調べ、教育心理学 I の全体を 振り返り内容を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>70</p>	<p>ルーブリックの評価規準による毎時間の学習レポート(1回1点～5点を14回)。</p>
<p>その他</p>	<p>30</p>	<p>小テスト1回(30問×1点)により成績評価を行う。</p>
<p><b>教科書</b></p>		
<p>自作の資料による。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>「文部科学省刊行物」「教育心理学(よくわかる!教職エクササイズ 2):森田健宏(監修),田爪宏二(監修,編集):1ミネルヴァ書房:2018/4/15」          「よくわかるコミュニティ心理学[第3版]やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ):植村勝彦(編集),高島克子(編集),箕口雅博(編集),原裕視(編集),久田満(編集):ミネルヴァ書房:2017/10/30」他</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>学習内容の理解と定着を図るため準備学習、事後学習を重視し学習規律を守り提出物は期限を厳守する。授業中は自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「教育心理学1」への理解を深めて頂きたい。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>なし</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		人間科学部 地域未来学科					
<b>区分</b>		専門基礎科目 地域理解					
<b>科目名</b>		地域未来概論(地域の未来を語る)				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2024年度前期	<b>区分</b>	講義	<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	熊野 稔、木村 俊昭						

**授業の位置づけ**

ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことに関連し地域づくり、地域創生学入門の科目である。

**授業の概要**

本科目は、地域未来学科のカリキュラムのダイジェストであり、イントロダクションである。地域創造に関連する専門の教員がオムニバス形式で、過疎地域、中山間地域、地方都市等が抱えるそれぞれの問題点や課題を解説し、各地で実施されている地域活性化の事例を通じて、地域社会の今後の方向性、まちづくりやむらづくりのマネジメント手法等基礎を学ぶ。達成目標は、地域社会がもつ課題や社会制度的仕組みの基礎知識を身に付けること、および地域の課題や問題解決に関する取組の情報を収集し、考察するために必要なコミュニケーション能力を身に付けることである。

**到達目標**

地域社会が持つ課題や地域づくり、社会制度的仕組みの基礎知識を身に着けること、及び地域の課題や問題解決に関する取り組みの情報を収集し、考察するために、必要なコミュニケーション能力を身に着けることができる。

**授業の方法**

オムニバス形式で1回目は熊野・木村、2回から8回目まで熊野、9回から14回目まで木村(ゲスト講師含む)、15回目の総括は熊野・木村で実施する。パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピック、課題や事例についての学習を講義形式で展開し、各教員と学生間のディスカッションなども行う。また現場に精通しているゲスト講師の話も聞く。

**ICT活用**

インターネットのほか、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

国家公務員や地方教育行政、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。現場に精通しているゲスト講師の講義も行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う、また授業後には演習シートの提出を行い、質問等には適切に対応する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 講義内容の説明・概論 全国的な地域づくり、地域創生の基本的な考え方、手法及び先進事例等、本講義の概要と目的、スケジュールの説明と学生の自己紹介を含めた地域づくりへの思いを話し合う。	準備学習および必要時間(30分):シラバスを読み授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第2回	2. まちづくりとしての地域未来学 まちづくりの基本や考え方及び内容や体系、プロジェクトの企画、調査、計画、実践、評価のフロー、先進事例などを学び、演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットでまちづくりについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) まちづくりの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。
担当教員	熊野 稔		
第3回	3. 「村おこし」としての地域未来学 過疎地域で人口減少に悩む町村地域の再生、特産品開発や観光開発、移住・定住施策他の村おこし事業についての基礎、考え方及び内容や体系を、北海道内外の先進事例のケーススタディも学習しながら学ぶ。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで村おこしについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 村おこし事業について復習するとともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第4回	4. 国土開発と利用、都市計画及び地域マネジメント基礎 我が国の国土開発、国土計画を国土のグランドデザイン2050などから学び、都市計画とエリアマネジメント、農村計画と地域運営組織等の地域マネジメントの基礎を学習する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで国土開発と利用、都市計画及び地域マネジメントについて検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第5回	5. 全国の地域づくり先進事例 現代の地域課題の解決に向けて推進中の先進的な地域づくり事例を都市部、農山村地域から選抜して紹介する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域づくり先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		

第6回	6. 北海道の先進地域づくり 北海道野の各地域課題の解決に向けて推進中の先進的な地域づくり事例を都市部、農山村地域から選抜して紹介する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで北海道の地域づくり先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第7回	7. 地域づくりのイノベーションと法体系 地域課題を解決する革新的な手法で生み出された地域イノベーション体系の基礎を学習する。ポケットパークや道の駅、市街地再開発や温泉街の再生なども事例に取り上げて理解を深める。また地域づくりに関する都市計画法などの法体系の基礎も学習する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域イノベーションの先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第8回	8. 地域未来学演習:アクティブラーニング この町のどの地区の課題を浮き彫りにして、いかなる手法で解決していくかの地域のデザインを考えて1000字程度のレポートを仕上げ提出する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域づくりワークショップについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第9回	9. 地域創生学と地域創生・SDGsの本質 都心部への過度な人口集中を食い止め、少子高齢化や人口減少等で衰退する地方自治体の持続的発展のために、国・企業と一体となって地域経済を活性化しようとする取り組みを「地域創生」と考える。2014年に打ち出された「地方創生」という政策の名前から生まれた。また、SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称でSDGs(エス・ディー・ジーズ)と読む。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2015年から2030年の15年間で達成するために持続可能でよりよい世界を目指すために掲げた17目標と169ターゲットからなる。この2つの基礎を学ぶ。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGsを検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第10回	10. 地域創生・SDGsと6次産業化の推進 *ゲスト農林水産省農村政策部長 地域創生・SDGsの基礎を学びながら、17の目標の様々な分野に関連する6次産業化の推進について、政策現場に精通した農林水産省農村政策部長をゲストに学ぶ。 6次産業化とは、1次産業を担う農林漁業者が、自ら2次産業である「加工」や3次産業の「販売・サービス」を手掛け、生産物の付加価値を高めて農林漁業者の所得を向上する取り組みを指す。「6次産業=1次産業(農林漁業)×2次産業(加工)×3次産業(販売・サービス)」と、1次産業にほかの産業を掛け算して6次産業としている。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGsと6次産業化を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		

第11回	11. 地域創生・SDGsの実践 地域創生・SDGsの実践について講師の体験実践や先進事例等を通じて実証的に学ぶ。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGs実践を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第12回	12. 地域創生・SDGsとデジタル化 デジタル庁審議官(経済産業省からの出向者)地域創生・SDGsを推進するに際して労働生産性を高めるデジタル化は欠かせない。デジタル化とは、アナログな業務をデジタルに変えることを意味し、事務処理をペーパーレス化する、朱肉の押印の契約処理を電子契約化する、社内のマニュアルや資料を電子化・クラウド化する、ウェブ会議ツールを用いたりリモートワーク(テレワーク)なども含まれる。業務効率化やコスト削減、新規ビジネス創出、働きやすい環境づくりなどにおいて欠かせない手段とされ、デジタル庁審議官をゲスト講師で呼びびして学習する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGs、デジタル化を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第13回	13. 地域創生・SDGsと地域雇用の促進 厚生労働省審議官(地域雇用活性化担当)地域雇用開発促進法に基づき厚生労働省では、雇用機会が不足している地域や過疎化が進んでいる地域等による、地域の特性を生かした「魅力ある雇用」や「それを担う人材」の維持・確保を図るための創意工夫ある取組を地域雇用活性化推進事業等により支援している。厚生労働省審議官をゲスト講師にお招きして講義を行う。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGs、地域雇用促進を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第14回	14. 地域創生・SDGsの推進と人財養成 地域創生・SDGsの推進とその担い手となる人財養成について、自らの体験や先進事例、その手法と体系などについて学習する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGs、人財養成を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第15回	15. 総括 今までの授業を振り返り、受講生と対話や議論を重ねながら重要点の復習や今後の地域創生の方向性を語り合う。	準備学習および必要時間(90分): 今までの学習を振り返り重要事項を復習する。	事後学習および必要時間(90分): 今までの復習と反省点に立ち、今後の学習の方向性を考える。
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>各授業の出席状況(20%)と各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)による合計100%で評価する。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p><b>教科書</b></p>		
<p>オリジナル資料を配布する</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>特になし</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>原則、すべての授業に出席すること。各授業の出席と演習シート等の提出、全体レポート等で評価する。試験は無し。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>インターネットによる資料検索等を事前学習で行う</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		世界と北海道				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						

授業の位置づけ

世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えていく。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。(思考・判断・表現)  
 地域未来学科のディプロマポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」ことと特に関係する科目である。

授業の概要

地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代への発信・継承することができる。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や教養力を備えている。世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。  
 本科目は、私たちが暮らす北海道と世界がどのようにつながっているかの理解を深め、北海道に関する知識を深めていく科目である。北海道の主力産業である第一次産業の産品は今や世界の高級ブランドとして消費され、北海道には世界中から観光客が訪れるようになった。また外国人居住者も増加しており、北海道のグローバル化の現状について、学生は様々な分野の統計や詳細データを収集し、その資料を多角的な視点で分析し、データの裏付けから現状と課題を映し出す手法を身に付ける。

到達目標

- 1.北海道と世界のつながりを、観光の視点から述べるようになる。
- 2.前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につける。
- 3.PBL学習(Project/Problem Based Learning)について論じることができるようになる。
- 4.北海道について知るための統計やデータの収集方法を身につける。
- 5.データの初歩的な分析方法を身につける。
- 6.北海道全体と地域の問題を述べるようになる。
- 7.地元学を理解し、課題解決の手法を身につける。

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法			
各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、Google Classroomなどでの振り返りなどを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる内容が理解できるようになる	世界の人口、世界各国の人口、日本の人口、日本各都道府県の人口、北海道の人口、北海道各市町村の人口を調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第2回	北海道の戦略と取り組みⅠ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画についての把握(統計やデータの収集)	「北海道総合開発計画」について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第3回	北海道の戦略と取り組みⅡ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画と、北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第4回	北海道の戦略と取り組みⅢ →北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第5回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅰ →地域資源カードの作成法	「地元学」について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第6回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ →モノ(自然)についての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のモノ(自然)について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第7回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅲ →モノ(他)についての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のモノ(他)について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅳ →コト(イベント)についての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のコト(イベント)について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅴ →コト(他)についての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のコト(他)について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第10回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅵ →ヒトについての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のヒトについて調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第11回	地域資源カードを使った課題解決の検討Ⅰ →北海道各地域の、強みや弱みを考えていく *目的、目標、手段の違いを明確にする *情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	SWOT分析について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第12回	地域資源カードを使った戦略立案Ⅱ →情報発信手段について考えていく *目的、目標、手段の違いを明確にする *情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	考えられる情報発信手段について調べ事前提出すること(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第13回	地域資源カードを使った戦略立案Ⅲ →恵庭市についての考察 *目的、目標、手段の違いを明確にする *情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	恵庭市の取り組みについて調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	地域資源カードを使った戦略立案Ⅳ →恵庭市周辺地域の考察 *目的、目標、手段の違いを明確にする *情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	恵庭市周辺の市町村の取り組みについて調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第15回	これまでの講義の振り返りと最終レポート →チーム編成をして、これまでの振り返りのためのディスカッションと発表を行う →最終レポート提出	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況 最終レポート(これまでの授業の理解度を確認。レポートのテーマについては、最終授業日に伝える)</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>教科書はなし。講義資料等については各回で随時配布。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>授業ごとに紹介していく。</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>授業は、グループワークを中心に構成しているため、遅刻は原則欠席扱いとする。ただし、本学の規定に沿った理由で遅刻となる場合は、用紙などを添えて提出すれば出席とする。詳細はオリエンテーション時に報告する。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		日本政治経済論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、国際学部国際教養学科のディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」等に関連する科目であるとともに、人間科学部地域未来学科のディプロマポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代への発信・継承することができる」に関連するとともに、特に「幅広い視点から、地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」を実現するための科目である。

授業の概要

本科目は、世界の変化や現象をどのように分析するのかを学んでいくにあたり、その出発点として、現代の日本の政治と経済についての基本的な知識を修得するための科目である。具体的には、日本の現代政治および現代経済分析の基礎的な理論、観点を修得し、現代日本政治と経済の特徴について、1945年の敗戦から現在に至る事実の時系列的変化を正確に踏まえ、理論的、実証的に考察する力を養う。

到達目標

学生が、自ら関心を持つ政治経済分野を特定し、その分析に必要な理論的枠組みはどのようなものかを理解し、必要な情報を収集する能力を養う。分析するにはどの分野の知識が必要であり、どのような情報をどのような形で収集すべきであり取捨選択すべきか(新聞、テレビ、ネット等)を判断し、解決策を主体的に提示できることを到達目標とする。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行う。受講者の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を目指す。

ICT活用

Google Classroomにより授業外においても日々のマスコミ情報の補充等を行うと共に受講生との対話を行う。また関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、地球環境問題をはじめとする条約交渉やWTOを中心とする通商交渉、エネルギー政策や貿易保険といった政策分野において、外交交渉、法案作成、国会審議、予算編成の実務を経験しているだけでなく、現実の政治や選挙といった実戦における経験も踏まえて講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
講義の中での積極的なディスカッションを奨励するほか、講義期間中2度程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握しケーススタディの選択の参考にする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	はじめに 本講座の位置付け・講義のアウトライン・参考文献リストの提示と受講生の関心の提示 1. 大学教育における「一般教養科目」 (1) 大学教育における「教養」とは (2) 大学の発祥 (3) 日本の大学 (4) アメリカの大学 2. 学問としての政治学 (1) 「為政者のための学問」という性格 (2) 政治学とその内部、および近接学問分野 (3) 日本の大学形成史における政治学の位置づけ (4) 学者本人のバイアス	シラバスを読み自らの関心を明確にしつつ、指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を读了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員	宮本 融		
第2回	第1章 権力と支配 0. みんなの知ってる「〇〇」はブラック企業か？ 1. 「権力」の構成要素 (1) 権力の行使の態様 (2) 権力関係の類型 (3) 権力と権威 (4) 「〇〇」について考える	指定された文献を読んでおくこと(90分) 北村・久米・真淵『はじめて出会う政治学』第3版補訂 有斐閣アルマ 2010	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第3回	第2章「政治」の定義 (1) 政治現象の範囲 (2) 近代における「国家」の概念 (3) 「国家」観の歴史 ① 古代 ② 中世 ③ 近世	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第4回	<補論>1 ヨーロッパとは何か～中世末期の欧州世界	指定された文献を読んでおくこと(90分) 高校世界史(できればB)教科書の欧州中世から近代に至る過程を復習しておくこと 高校時代世界史を選択しなかった受講生は 『世界の歴史』編集委員会編『新もう一度読む 山川世界史』山川出版社 2017 の該当箇所を読んでおくこと	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第5回	第2章「政治」の定義 (3) 「国家」観の歴史 ④ ルネッサンス後 ⑤ ドイツ国家論 ⑥ 社会主義への道 ⑦ マルクスとマルクス主義による批判 ⑧ 20世紀アメリカ政治学と実証主義	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		

第6回	第2章「政治」の定義 (5)20世紀後半以降の政治学の潮流～制度論から権力中心の政治理解へ～ <補論2>「歴史主義」についての補足 (1)歴史をめぐる基本認識枠組み (2)マルクス主義的歴史観 (3)「革命」を探して ① イギリス 「市民革命」は、「長い革命」か「2段階革命」か？ ② アメリカ 「独立戦争」か「独立革命」か？ ③ フランス 革命の「5段階進行説」はどこまで一般化できるか？	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分) 中間課題を作成すること
担当教員	宮本 融		
第7回	第3章「政治権力」 (1)支配と被支配 (2)権力の主体 (3)権力の客体 (4)支配の正統性 <補論3> M. Foucaultにおける生の権力・死の権力 (5)リーダーシップの類型論	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第8回	第4章 国家と政府 (1)立憲主義 (2)政府の形態 (3)政府の役割 (4)「天皇制国家」の支配原理	指定された文献を読んでおくこと(90分) 藤田省三『天皇制国家の支配原理』みすず書房2012 または市川弘正編『藤田省三セレクション』平凡社 2010	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第9回	<補論4>丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む	指定された文献を読んでおくこと(90分) 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社2010 荻部直『丸山眞男ーリベラリストの肖像』岩波新書2006	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第10回	<補論5>フェミニズムと日本政治 1. フェミニズムと政治学 2. 上野千鶴子の「東大入学式祝辞」を読む 3. 現代日本政治学における「フェミニズム」	指定された文献を読んでおくこと(90分) 上野千鶴子 東大入学式祝辞 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		

第11回	第5章「政治」と「行政」 1. 「政治」と「行政」～一元論と二元論～ 2. 行政	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第12回	第6章 民主主義の制度 1. Polyarchy 2. 議会 (1) アメリカ (2) イギリス (3) 日本 (4) 体制変動における議院内閣制と大統領制 (5) 首相公選制	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第13回	第7章 政党 1. 政党の役割 2. 政党組織の分類学 3. 政党システム～選挙区制と政党制	指定された文献を読んでおくこと(90分) 吉田徹『「野党」論』ちくま新書2016	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第14回	第8章 日本における政党政治史 1. 近代国家日本の政治 (1) 明治維新と近代日本国家 (2) 憲法制定と帝国議会 (3) 帝国議会 ① 初期議会 ② 桂園時代 ③ 大正デモクラシー (4) 太平洋戦争への道	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第15回	第8章「政権党」としての自由民主党 1. 自由民主党の特徴 2. 保守合同から初期自民党 (1) GHQ下における戦後日本政治の再出発 (2) 吉田学校と鳩山一郎 (3) 保守合同と三木武吉 3. 戦後政治の確立 (1) 佐藤政権と政治の「制度化」 (2) 角福戦争と金権政治 (3) 中曽根政権と「戦後政治の総決算」 (4) 政治改革の時代 (5) 民主党政権という名の実験 (6) 安倍政権時代の終焉	指定された文献を読んでおくこと(90分) 石川真澄・山口二郎『戦後日本政治史』第4版 岩波新書2021 朴喆熙『代議士のつくられ方—小選挙区の選挙戦略』文春新書2000 境家史郎『戦後日本政治史』中公新書 2023 中北浩爾『自民党—「一強」の実像』中公新書2017	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献を读了しておくこと(90分) 加えて、期末課題を作成すること
担当教員	宮本 融		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度及び参加の積極性30% 小課題提出状況30% 期末課題40%
その他	0	
<b>教科書</b>		
北村俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学』有斐閣アルマ		
<b>参考文献</b>		
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『補訂版 政治学』有斐閣 2011 佐々木毅『政治学講義』第2版 東京大学出版会 2012 特に後者は現時点においても日本語で書かれた最高水準の内容であるが、大学生のたしなみとして、購入し手元において、本講義はもとより、日常マスコミ報道等で疑問に思う事項を検索するようになって欲しい。 京極純一『日本の政治』東京大学出版会 1983		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
大学としての学習の出発点として、政治学・政治過程論の基礎概念の解説を行いながら、受講者の関心を反映することを検討するので、扱って欲しい課題のリクエスト等、積極的にクラス参加してほしい。 なお、本シラバスは基本的に23年度後期に実施したものをベースとしているが、2023年は年末に自民党の裏金問題が発覚し自民党政権のあり方に大きな関心が寄せられたことに応えるため、自民党の歴史をあえて取り上げたのであって、オリジナルにはもっと「野党論」を扱う予定であった。2024年の政治情勢によってトピックの重点や取り上げるエピソードが変わるので、受講生はあらかじめテレビや新聞の政治報道に関心を持		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		教育から考える地域と未来 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」及び「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係し、生涯学び続けることの重要性を理解するための科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本科目は、変化が激しく、予測不能な時代の教育の在り方を見据え、教育学の知識を動員し、地域の諸課題の解消や未来を想像(創造)する能力の修得に向けた素地の涵養を目的とする。例えば、人口減少に伴う基幹産業の後継者不足においては「指導者(年上、上司、先輩…)/学習者(年下、部下、後輩…)」といった、旧来型の指導方法や枠組みからの脱却が求められているように、慣例や前例にとられない行動変容が必要であり、様々な先進事例のケーススタディやヒアリング等を通して、視野を広げ、履修者が教育という切り口から積極的に未来の地域の姿をデザインしていこうとする態度の醸成を目的とする。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>①地域づくりと教育の関連性や重要性について、事例をもとに理解し、説明できる。                  ②地域づくりのコーディネーターを担う人材が備えるべき特性について説明できる。                  ③課題意識を明確にし、的確に相手の回答を引き出すことができる。                  ④「RESAS 地域経済分析システム」等のWebアプリの基本的な操作方法を理解し、活用できる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。                  ・9・11・13回目はゲストによる講話を予定する。(オンラインの可能性あり)</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。                  ・Google meet等を活用し、ゲストによる講話を行う。                  ・Google classroomのform機能やWebアプリのアンケート機能を活用してリアルタイムに学生の考えの把握やフィードバックを行う。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>道立生涯学習推進センターや国立青少年教育施設等の教育行政勤務の中で、市町村教育委員会をはじめ、学校や社会教育関係団体へ指導・助言する経験があり、地域づくりに取り組む幅広いネットワークを有している。このネットワークを生かし、地域における教育と異業種との協働の実態や在り方等について指導する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりシートやWebアプリを活用し、受講生同士の感想や気付きについての意見交換やフィードバックの時間を設ける。</li> <li>・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。</li> <li>・グループ発表に対する講評を行う。</li> </ul>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業全体の構成を俯瞰し、人口減少が地域に与える影響について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	人口減少が地域に与える影響についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	人口減少の時代 RESASの基本操作を学び、グループの課題意識の選択と共有を行う。 事前・事後学習のポイントを学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	RESASの基本操作をふりかえるとともに、グループ活動での気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	事例研究1 青少年教育や学校運営への貢献を通して進める地域づくり事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第4回	事例研究2 青少年の社会参画に取り組む自治体の事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	事例研究3 防災・減災に取り組む自治体の事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第6回	事例研究4 環境保全やSDGsに取り組む自治体の事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第7回	事例研究5 離島における教育活動の事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	事例研究6-1 過疎地域の地域課題の解決に向けた取組とそのキーパーソンについて理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	事例研究6-2 過疎地域の地域課題の解決に取り組むゲストの話聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	ゲストへのインタビューをシミュレーションして授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第10回	事例研究7-1 青年の社会参画や起業に取り組むキーパーソンについて理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			

第11回	事例研究7-2 青年の社会参画や企業に取り組むゲストの話聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	ゲストへのインタビューをシミュレーションして授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	事例研究8-1 市民活動の中間支援に取り組むキーパーソンについて理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			
第13回	事例研究8-2 市民活動の中間支援に取り組むゲストの話聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	ゲストへのインタビューをシミュレーションして授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	まとめとふりかえり 地域づくりに取り組むキーパーソンに共通すること(キーコンピテンシー)を考察し、グループ課題のまとめを行う。	事例研究全体をふりかえり、それぞれでの気づきを整理しながら授業に臨む(90分)。	地域づくりに取り組むキーパーソンに共通すること(キーコンピテンシー)についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり グループ課題を発表し、講義全体をふりかえるとともに、学びや気づきを共有する。	グループ発表に向けて資料や役割分担などの準備を行う(90分)。	教育から考える地域と未来Iを通しての気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり(15回) 40% ②授業内課題(3回) 25% ③グループの成果物 25% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道アウトドアネットワークHP<a href="https://hokkaidooutdoor.jp/">https://hokkaidooutdoor.jp/</a></li> <li>・事例として取り上げる自治体のHP</li> <li>・だから僕は船をおりた 東京生まれの元漁師が挑む、フードアクション！ 近江正隆 著 講談社</li> <li>・世の中への扉 ぼくの職場は富士山です 近藤光一 著 講談社</li> </ul> ※その他授業内で適宜紹介する		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。</li> </ul>		
<b>備考欄</b>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 地域未来学科						
区分	専門科目 生涯教育						
科目名	教育から考える地域と未来Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

## 授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」及び「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係し、生涯学び続けることの重要性を理解するための科目である。

## 授業の概要

本科目は、「教育から考える地域と未来Ⅰ」における学びや気づきをもとに、公教育と異業種、異校種が協働した取組事例研究、企画書や助成金等による資金調達計画書の作成・プレゼンテーション法、効果的な情報発信や社会から共感を得る広報戦略、協力者の獲得の方法やコーディネート等、地域の持続に資する学びを推進する総合的なプロデューサーとしての資質・技能の獲得と行動力の育成を目的とする。

## 到達目標

- ① 教育と異業種の協働による取組における教育の意義や可能性を説明できる。
- ② 学びと地域づくりにおけるネットワークやパートナーシップの重要性を説明できる。
- ③ 補助金や助成金等について理解し、申請書を作成できる。
- ④ 場に適した方法を用いてプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業の方法

- ・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。
- ・13回目はゲストによる模擬ヒアリングと解説を予定する。(オンライン)

## ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
- ・Google meet等を活用し、ゲストによる模擬ヒアリング等を行う。
- ・Google classroomのform機能やWebアプリのアンケート機能を活用してリアルタイムに学生の考えの把握やフィードバックを行う。

## 実務経験のある教員の教育内容

国立青少年教育施設での勤務の中で、子供の体験活動等を支援する「子どもゆめ基金」についての知識を有しており、地域の教育振興に向けた資金獲得方策等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりシートやWebアプリを活用し、受講生同士の感想や気付きについての意見交換やフィードバックの時間を設ける。</li> <li>・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。</li> <li>・グループ発表に対する講評を行う。</li> </ul>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 地域の未来につながる学びを実現させるためのつながりや具体的な行動に向けた資金調達の重要性について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	地域の未来につながる学びを実現させるためのつながりや具体的な行動に向けた資金調達の重要性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	事例研究1 住民参画による新しい学校づくりの取組事例から、教育の果たす可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	事例研究2 民間事業者による環境教育の取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第4回	事例研究3 ジオパークの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	事例研究4 観光振興に取り組む自治体の事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第6回	事例研究5 スポーツ振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第7回	事例研究6 地域おこし協力隊による取組や起業の事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	総務省ホームページ「地域おこし協力隊事例集」を閲覧して授業に臨む(90分)	グループで分担した役割に基づき、グループ発表の準備を行う(90分)。
担当教員			
第8回	事例研究6 地域おこし協力隊による取組や起業の事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表の準備を行う(90分)。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表の準備を行う(90分)。
担当教員			
第9回	事例研究のまとめ 授業で取り上げた事例を俯瞰し、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について整理し、考察を深める。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表の準備を行う(90分)。	グループの課題発表や他のグループからのフィードバックで得た気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第10回	資金調達の基礎 公教育における予算の仕組みについての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	公教育における予算の仕組みについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第11回	資金調達の基礎 補助金や助成金の仕組みなど、実践のための資金獲得の方策について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	補助金や助成金の仕組みなど、実践のための資金獲得の方策についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	資金調達の基礎 助成金の申請書の作成を通して、学びや学習を届けたい人のニーズのつかみ方やPRの基本等を学び、具体的な取り組みのアイデアを練り上げる。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表・ヒアリングの準備を行う(90分)。
担当教員			
第13回	資金調達の基礎 作成した申請書類のプレゼンテーションを行い、グループ相互に批評し合い、ブラッシュアップさせる。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表・ヒアリングの準備を行う(90分)。
担当教員			
第14回	資金調達の基礎 作成した申請書類に基づき、模擬ヒアリングを行う。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表・ヒアリングの準備を行う(90分)。	グループ発表・ヒアリングのを通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり 教育から考える地域と未来Ⅰ・Ⅱをふりかえるとともに、学びや気づきを共有する。	教育から考える地域と未来Ⅰ・Ⅱにおける気づきを整理し、発表できるようにする(90分)。	教育から考える地域と未来Ⅰ・Ⅱを通しての気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり(15回) 40% ②授業内課題(2回) 20% ③グループの課題 30% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
・子どもゆめ基金HP ※その他授業内で適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		コミュニティ教育論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。「コミュニティ教育論Ⅱ」へとつながる科目である。」</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本科目では、コミュニティの存在における意義・意味、現代社会における役割等について、教育学の観点から学ぶ。基礎的な知識にはじまり、場合によっては事例を挙げながらより深い理解を促す。履修者は、自らが地域社会の一員であることを踏まえ、コミュニティを通じた他者との関わりを具体的にデザインするための素養を身につける。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>(1)コミュニティ教育の課題について説明できる。                  (2)暮らしの中での学習の論理について説明できる。                  (3)暮らしをつくり変える社会運動における学びの論理を説明できる。                  (4)コミュニティ教育との関わりで社会教育施設が有する可能性や課題を説明できる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>事前に各回の講義主題を提示し、事前学習を求める。講義では映像を含む資料を提示し、講義主題との関連を説明する。その後に小グループに分かれて、各自が事前に検討した内容と資料に基づき考察した内容を総合し、グループごとの意見を集約する。最後に教員から総評を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>全体討議の際に、クリッカーを使用する場合がある。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
講義内で発表に対するコメントを示すとともに、個別レポート提出後に全体に対し課題に対する解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義全体の主題及び進め方について説明する。地域づくりにおいて求められる教育機能について、アフガニスタンで活躍した医師・中村哲の記録映像をもとに検討する。住民が地域づくりの主体となるための支援者の役割について議論し、この講義全体に関わる課題を確認する。	シラバスを読んでおく。中村哲氏について調べておく。(60分)	地域づくりと教育の関連についての仮説的理解をまとめる。(60分)
担当教員			
第2回	コミュニティ教育を論ずる場合の教育概念について検討する。学校をモデルとした教育概念を相対化し、生活と学習の関連、その学習を支援する教育の課題について検討する。戦前から戦後にかけての学校の歴史に関する資料映像を基に検討する。	教育の定義について調べておく。(60分)	近代学校と地域社会との関連についてまとめる。(60分)
担当教員			
第3回	人間の自己形成がどのような作用の上に展開するのかを、各自の経験を踏まえて検討する。そのうえで、宮原誠一の形成と教育に関する論文を検討し、コミュニティ教育の核を構成する活動(生産・労働)と教育の関連を検討する。	自己を形づくる要因について、自身の経験を基に考えておく。(60分)	形成と教育の区別について整理する。(60分) 課題レポート(1)をまとめる。課題はコミュニティ教育における教育概念について。(60分)
担当教員			
第4回	この回からは暮らしの中での学びと人間形成について検討する。地域の伝統産業を取材した映像資料をもとに、仕事を通じた人間形成の論理を探る。	「よい仕事」とは何かを考えておく。(60分)	地域を支えた産業における人間形成と地域づくりの関連についてまとめる。(60分)
担当教員			
第5回	人が育つ地域を創るうえで、地域文化が持つ意義を北海道・二風谷の事例をもとに検討する。アイヌ民族の文化的アイデンティティを育む実践を紹介した映像資料をもとに、地域づくりと文化との関連を考える。	二風谷について調べる。(60分)	地域文化の継承・発展に関わる活動が人間形成にとって有する意義についてまとめる。(60分)
担当教員			

第6回	地域生活の破壊に対抗する住民の運動を事例に取り上げ、その運動の中での学習の組織化の特徴を検討する。近代化過程における地域の再編に対する住民の主体的対応が地域づくりにとって持つ意義について考える。	日本の四大公害と四日市ぜんそくについて調べておく。(60分)	住民運動における学習の特徴と意義についてまとめる。(60分)
担当教員			
第7回	農業の近代化の在り方に疑問をもった農民たちの自主的な学習運動(農民大学運動)を取り上げ、地域づくりの課題と方法が探求される過程と論理を検討する。	信濃生産大学について調べておく。(60分)	山形県農民大学の展開に即して、地域づくりに関わる学習が組織されていく過程を整理する。(60分)
担当教員			
第8回	都市部における社会資本・社会的共通資本の不足に対抗する住民運動として、保育所づくり運動を取り上げ、その運動における学習の展開過程と地域づくりの課題が意識される論理について検討する。	共同保育所運動について調べておく。保護者の意識変化についての仮説を立てる。(60分)	保育所づくり運動における協同性の発展についてまとめる。(60分)
担当教員			
第9回	社会的に排除された人々を包摂する地域づくりの課題について、地域福祉の実践事例(麦の郷)に即して検討する。ネットワークを形成しながら地域課題を解決する社会的企業が地域づくりについて持つ意義について考える。	障害者の生涯学習の推進状況について調べ、地域福祉と地域づくりの関連について検討しておく。(60分)	共同作業所から出発した麦の郷が地域づくりの担い手になっていった理由についてまとめる。(60分) 課題レポート(2)をまとめる。課題は、地域の人間形成力を高める住民の学習の特徴について。(60分)
担当教員			
第10回	ここからは地域づくりを基盤にした新たな住民自治の可能性と課題について検討する。労働者協同組合の実践に即して、社会的連帯経済の実現に向けた取り組みが住民自治・地域づくりにとって持つ意義を検討する。	労働者協同組合について調べ(『協同の発見』参照)、働く人々が仕事を起こす意義について考えておく。(60分)	現代社会における社会的連帯経済の課題と担い手形成についてまとめる。(60分)
担当教員			

第11回	地域生活のインフラである医療について、その在り方を問いながら、住民と共に再構築する実践事例(秋田県・上郷地区、愛知県・南医療生協)に即して、暮らしを支える地域づくりの課題について検討する。	南医療生協について調べ、この実践の独自性について考えておく。(60分)	暮らしのインフラを再建する非営利・協同の実践の意義についてまとめる。(60分)
担当教員			
第12回	住民が協働で創造することを重視したニュー・ミニシパリズムの実践について、国内外の事例を基に、その意義と可能性を検討する。自治体経営における効率性を規制する公共性を構築する課題について考える。	住民自治の必要性和課題について整理しておく。(60分)	ニュー・ミニシパリズムの特徴をまとめる。(60分)
担当教員			
第13回	新たな住民自治を推進するために求められる社会教育の課題と方法について検討する。この回では公民館における健康学習から地域づくりが展開した事例を取り上げ、公民館実践の可能性について考える。	公民館の歴史と役割について調べておく。地域づくりにおいて公民館が果たす役割について整理しておく。(60分)	住民自治と公民館実践の関連について整理する。(60分)
担当教員			
第14回	住民自治を支える教育施設としての図書館・博物館の意義と課題について検討する。地域の物語(コミュニティ・ストーリー)へ着目する意義を確認した後に、その物語を再編集するための教育施設としての社会教育施設の課題を事例により検討する。	地域づくりと図書館・博物館の関連について調べておく。(60分)	地域の物語の編集装置に図書館・博物館がなるための条件についてまとめる。(60分) 課題レポート(3)をまとめる。課題は、地域づくりと住民自治の関連について。(60分)
担当教員			
第15回	これまでの講義内容を振り返りながら、地域教育の現代的課題について検討する。特に、グローバル化と消費者市民化が進展する下で、地域づくりが直面する課題に焦点を当て、地域で実践する意味とコミュニティ教育の課題を検討する。	講義ノートを読み返し、疑問点を整理しておく。地域づくりの現代的課題について考えておく。(60分)	地域づくりとコミュニティ教育の現代的課題と今後の学習課題について整理する。(60分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出・グループ発表(60%) グループ活動への参加度合い(20%) 発言時における対話の成立状況(20%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
資料を用意する。		
<b>参考文献</b>		
各回に関連文献を示す。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		コミュニティ教育論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本科目では、「コミュニティ教育論Ⅰ」で得た学びを踏まえた内容を扱う。たとえば、我が国をはじめとする人口減少社会において重要な要素の一つとされる「社会関係資本」と訳されるソーシャル・キャピタル等についての理解をさらに深める等、履修者はコミュニティの存在が実際の地域社会に与える効用について観察し、分析できる能力を身につける。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>(1)地域における日常意識の再生産の仕組みについて説明できる。                  (2)意識化の条件について説明できる。                  (3)地域が直面する現代的課題との関わりで、学習・教育実践の課題を説明できる。                  (4)地域を創る学びを組織し、促進するための支援者の課題について説明できる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>事前に各回の講義主題を提示し、事前学習を求める。講義では映像を含む資料を提示し、講義主題との関連を説明する。その後に小グループに分かれて、各自が事前に検討した内容と資料に基づき考察した内容を総合し、グループごとの意見を集約する。最後に教員から総評を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>全体討議の際に、クリッカーを使用する場合がある。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
講義内で発表に対するコメントを示すとともに、個別レポート提出後に全体に対し課題に対する解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	はじめに:講義の主題と方法について紹介する。ユネスコの生涯教育論を紹介し、従来の学校を基軸とした教育システムの限界とそれに代わる新たな教育構想を地域を基盤にして描く可能性について検討する。	シラバスを読んでおく。地域を創る学びとはどのようなものかを考えておく。(60分)	ユネスコ生涯教育論の問題提起についてまとめておく。(60分)
担当教員			
第2回	地域づくりに関与する主体を、日常生活者としての民衆として理解する。地域づくりは常に意識されるのではなく、民衆の日常意識の中に生じた行き詰りがその意識化の契機になる。今回は民衆の日常意識として民衆意識、さらには民衆思想の構造について検討する。	「日常」という言葉を定義してみる。(60分)	日常意識に関する安丸良夫とミシェル・ド・セルトーの主張についてまとめる。(60分)
担当教員			
第3回	民衆の意識は物語として構成されており、その物語は集合的記憶に支えられている。集合的記憶に関する研究の動向を紹介し、民衆意識を把握するために求められる視点について検討する。集合的記憶に関わる事例を紹介し、その視点の有効性を検証する。	集合的記憶について調べておく。(60分)	M.アルバックスの問題提起についてまとめる。(60分)
担当教員			
第4回	「想起のメディアとしての場」および「場所の力」についての理論を紹介し、「場」としての地域が民衆の意識形成において有する意味を検討する。	自分にとって特別な場所をあげ、その場所で想起される出来事を整理しておく。(60分)	「想起のメディア」という考え方についてまとめる。(60分) 課題レポート(1)をまとめる。課題は、地域住民の日常意識をどう把握するか。(600分)
担当教員			
第5回	ここからは自らの日常意識を住民が振り返り、暮らしと地域の価値を意識化していく学習過程に焦点を当てる。この回では、「地元学」と呼ばれる実践方法を紹介し、その背景にある民俗学の意義についても言及する。そのうえで、東近江市の図書館活動を事例に、地域の物語を住民自身が再編集する実践について、その意義を検討する。	「地元学」について調べておく。(60分)	東近江市立図書館の実践の意義についてまとめる。(60分)
担当教員			

第6回	日常意識の振り返りでは、「よそ者」が果たす役割も大きい が、必ずしもすべての「よそ者」が有効な役割を担うとは限 らない。その理由について事例をもとに検討し、課題提起 教育(P.フレイレ)の提起を手がかりに、実践を左右する条 件について考える。	「よそ者」論について調べておく 。(60分)	意識化と共同探求の関連につ いてまとめる。(60分)
担当教員			
第7回	日常意識の振り返りとしての意識化の内容について検討す る。水俣病に関わるチツソの責任を問うと運動の中で、自ら の加害者性を意識化した実践者(緒方正人氏)の記録を読 みながら、意識化の意味を検討する。フレイレと省察と行動 の枠組みによって整理を試みる。	水俣病について調べておく。 (60分)	緒方氏の意識変化についてまと める。(60分)
担当教員			
第8回	日常意識の振り返りと地域づくりの課題の意識化を進める にあたっては、自由で開かれ、排除性がない対話的空間 が必要になる。その空間を非決定空間として把握し、それ を位置づける必要性と意義について、被差別部落の解放 運動を事例にして検討する。	被差別部落の歴史について調 べておく。(60分)	事例として紹介する暮らしづくり ネットワーク・北芝の実践の意義 についてまとめる。(60分)
担当教員			
第9回	非決定空間を地域社会に埋め込む上で、公民館などの社 会教育施設は大きな役割を担う。国立公民館の多文化共 生に関わる取り組みを参照しながら、共生社会を創るため の学びあいを産み出す場の在り方について検討する。	公民館における多文化共生の ための取り組みについて調べて おく。(60分)	非決定空間・中間地帯としての 公民館の意義についてまとめる 。(60分)
担当教員			
第10回	アートは想像の領域を拡張することによって、日常意識を 省察する可能性を産み出すと同時に、課題意識や希望 を産み出す活動でもある。コミュニティ・アートやソーシャ ー・エンゲイジド・アートと呼ばれる実践に即して、その可能 性を検討する。大阪市の「釜ヶ崎」で文化創造に取り組むコ コルームの事例に基づき検討する。	NPO法人こえとことばのこころの へや(ココルーム)と釜ヶ崎芸術 大学について調べておく。(60 分)	ココルームの実践の意義につい てまとめる。(60分)
担当教員			

第11回	地域づくり実践において、非決定空間を埋め込む必要性と意義、運営の課題について、労働者協同組合の実践事例(みんなのおうち)に基づいて検討する。全国の事例とともに、恵庭市における実践を取り上げる。	労働者協同組合の取り組みについて調べておく。(60分)	「みんなのおうち」が果たす役割についてまとめる。(60分) 課題レポート(2)をまとめる。課題は、日常意識の振り返りと課題の意識化を進めるための方法について。(600分)
担当教員			
第12回	地域は多様な価値観を持つ人々の集まりであり、多様性を前提とし尊重しながら、同時に集合的な価値(必要性)を見出すことが必要である。多様な人々が多様なままに「共生」するための課題を検討する。ここでは滋賀県において循環型地域経済への挑戦を続けている菜の花プロジェクトの実践を事例に検討する。	「共生」の意味について調べておく。(60分)	循環型地域経済を基盤にした地域づくりについての合意形成過程をまとめる。(60分)
担当教員			
第13回	「共生」の重要な課題の一つは社会的排除の克服である。人間の安全保障やSDGsの問題意識も参照しながら、地域共生社会の課題を恵庭の事例に即して検討する。	「地域共生社会」の推進政策について調べておく。(60分)	恵庭市の事例から地域共生社会の実現に向けて得られる示唆についてまとめる。(60分)
担当教員			
第14回	現代の地域づくりにおいて、観光は大きなウェイトを持つ。地域外の人々との交流が増大する中で、共生の在り方も視野を広げて考える必要がある。地域内の共生を踏まえて地域外の人々との共生の課題について、観光を切り口に検討する。	観光産業の進展状況について調べておく。(60分)	事例を基に観光が地域学習にとって有する意義についてまとめる。(60分) 課題レポート(3)をまとめる。課題は、共生社会を創るための課題について。(600分)
担当教員			
第15回	講義内容の振り返りを行いながら、コミュニティ教育・地域社会教育実践の課題について検討する。	講義ノートを読み直し、質問があれば整理しておく。(60分)	コミュニティ教育の現代的課題について整理する。(60分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出・グループ発表(60%) グループ活動への参加度合い(20%) 発言時における対話の成立状況(20%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
資料を用意する。		
<b>参考文献</b>		
各回に関連文献を示す。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<b>備考欄</b>		
オンラインによるゲスト招へいの可能性あり		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		人間科学部 地域未来学科					
<b>区分</b>		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
<b>科目名</b>		健康社会と福祉				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2024年度前期	<b>区分</b>	講義	<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	松本 洋子						

**授業の位置づけ**

ディプロマ・ポリシーの「国際社会における地域や組織で、職務に関する限定的な領域だけでなく、専門知識を活かしつつ、協働できるコミュニケーション力を有している(思考・判断・表現)」および「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」と関係がある科目である。「健康社会と福祉」は、管理栄養士養成の初期に学ぶ専門基礎科目であり、「栄養教育論」、「食行動論」および「公衆栄養学」などの専門科目につながる科目である。また、地域未来学の幅広い教養を身につける「生活と社会環境」につながる科目である。

**授業の概要**

本科目では、急激な変容を続ける現代社会の下で、社会生活を営む住民が抱えている福祉の問題や課題を解決するための法令や関連施策について学習する。加えて、多様な職種が協業する病院等医療機関、老人保健施設、老人福祉施設および保育所等児童福祉施設における、福祉関連の基礎知識を修得する科目である。

**到達目標**

1. 社会福祉に係る専門用語と福祉施策等の現在について説明できる。
2. 社会保障制度と社会福祉を展開する行政や組織、マンパワーなどについて説明できる。
3. 子どもや高齢者などのライフステージ、障害や低所得など対象特性に施行されている福祉施策について説明できる。
4. 医療保険制度や介護保険制度の概要と、関わりを持つ専門職種に求められている役割について説明できる。

**授業の方法**

スライドと教科書を使いながら講義形式ですすめる。理解度を深めるための復習テストを時間内に行う(全14回)。

**ICT活用**

Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を繰り返し解かせて自主学习を促す。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
事後学習ノートにコメントして返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「社会福祉」に関して、福祉用語の語源や現状の定義などの学習、ソーシャルポリシー、社会保障など用語の学習、社会事業および社会福祉事業など、「社会福祉」の歴史を概括し、理解するためのガイダンスを行う。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	シラバスにある科目の位置づけ、授業の概要を理解し「社会福祉」について準備学習に取り組み、授業に備える(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第2回	「わが国における社会福祉の歴史」に関して、古代から近世までの慈善救済、第二次世界大戦後の社会福祉および新たな社会福祉の動向と、社会福祉と税の一体改革にいたる施策や制度の変遷について、それぞれ内容を整理して理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「わが国における社会福祉の歴史」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第3回	「社会保障制度と社会福祉を展開する組織」に関して、社会保障制度の体系、社会保険および公的扶助(必要性と現状)と、社会福祉を展開する行政機関、民間機関、施設および団体について、それぞれの内容を整理し理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「社会保障制度と社会福祉を展開する組織」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第4回	「子ども福祉」に関して、少子化対策、子ども福祉に関わる法制度(児童福祉法)、母子保健(母子保健法)、子どもの貧困および子育て支援事業について、それぞれ内容を整理し理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「子ども福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第5回	「障害者福祉」に関して、障害者を支える理念、障害者福祉関連法令(障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法)、障害者総合支援の目的について、それぞれ内容を整理し理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「障害者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		

第6回	「高齢者福祉」に関して、高齢者を取り巻く状況、高齢者を対象とした法令(老人福祉法、老人保健法、高齢社会対策基本法、介護保険法、社会福祉法)について、それぞれの内容を整理して理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「高齢者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第7回	「介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性」に関して、介護保険制度創設の背景、制度の概要、制度を支えるチームアプローチと専門職の役割について、それぞれ内容を整理し理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第8回	「低所得者福祉」に関して、社会における貧困、生活保護制度(基本原理・実施上の原則、保護の要件と最低生活費)、生活保護関連事業、低所得者対策および生活保護の現状について、それぞれ内容を整理し理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「低所得者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第9回	「医療福祉」に関して、医療保険制度(給付の種類)、保険診療の仕組み(保険医療機関、保険医、診療報酬制度)、特定機能病院・地域医療支援病院、地域連携および医療福祉と専門職について、それぞれ内容を整理して理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「医療福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第10回	「精神保健福祉」に関して、精神保健福祉法(社会復帰、自立と社会参加、精神保健指定医、精神保健福祉手帳)、障害者雇用促進法、自殺防止対策について、それぞれ内容を整理して理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「精神保健福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		

第11回	「社会福祉施設の役割」に関して、施設の分類および目的と機能、社会福祉施設の推移(歩みと現状)、枠組み(社会福祉法人、設備および運営に関する最低基準)について、それぞれ内容を整理して理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「社会福祉施設の役割」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第12回	「地域福祉」に関し、ノーマライゼーションとコミュニティーケア、推進組織と担い手(社会福祉協議会、民生委員・福祉協力員、ボランティアとNPO)、日常生活自立支援事業について、それぞれ内容を整理して理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「地域福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第13回	「社会福祉を担う人々」に関して、社会福祉従事者の現状、社会福祉専門職の資格制度、社会福祉を担う専門職・非専門職(民生委員、身体障害者・知的障害者相談員)および社会福祉従事者による連携・共働について、それぞれ内容を整理して理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「社会福祉を担う人々」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第14回	「社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待」に関して、福祉従事者の確保、貧困対策、自殺者対策、在宅高齢者の介護、災害弱者対策、判断能力低下者への保険医療従事者の支援、虐待対策およびサービスの質について、それぞれ内容を整理し理解を図る。*授業終了前にGoogle Formのテストを実施する。	「社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待」を教科書で学習する(90分)。	Google Formのテストで復習する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第15回	確認テスト テスト範囲は、1～14回に実施の復習テストから出題する。	Google Formのテストで復習する(90分)。	教科書「社会福祉を担う人々」を読んで復習する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
「コメディカルのための社会福祉概論」／鬼崎信好・本郷秀和編著／講談社		
<b>参考文献</b>		
「国民衛生の動向」／(一財)厚生労働統計協会 「国民福祉と介護の動向」／(一財)厚生労働統計協会		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
履修条件なし		
<b>備考欄</b>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		まちづくり法規				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔、浦田 洋						

## 授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる知識や技能を有する」ことに特に関連する。

## 授業の概要

本科目では、地域づくりの人材養成に不可欠なまちづくり関連の法律の体系と基本を学習・理解する。

(オムニバス方式/全15回)

① 熊野 稔/8回) 主に国土利用計画法、国土形成計画法、都市計画法、建築基準法、都市再生特別措置法、中心市街地活性化法、宅地建物取引業法等を中心に、まちづくりに関連する法体系を学習する。

③ (2 浦田 洋/7回)

主に地方自治法、地方財政法、地方公務員法や、地方自治制度等を中心に、地域社会の基盤を形成する法体系について学習する。

## 到達目標

まちづくりの関連法規の基礎を理解し、本学科で養成していく人材として掲げる「持続可能な社会を実現し」「地域の未来を担う」人材に求められる「好奇心をもってあらゆる情報に接し、咀嚼し、多角的な批評眼を用いて地域のあるべき将来像を描き、その実現に向かって多分野の人と協働して汗を流すことができる」資質・能力を身に着けることができる。

## 授業の方法

パワーポイントによる講義を行う。熊野は、主に国土利用計画法、国土形成計画法、都市計画法、建築基準法、都市再生特別措置法、中心市街地活性化法、宅地建物取引業法等を中心に、街づくりに関連する法体系を講義し学習する。浦田は地方自治法他、地域社会に関連する法体系の下に社会インフラの実例等を講義する。講義後に毎回演習シート等提出、試験、レポート作成・提出で成績評価する。

## ICT活用

インターネット活用による学習のほか、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

## 実務経験のある教員の教育内容

地方行政、大学職員等、現場の実践経験が豊富な多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。演習シート提出による質問には適切に対応する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1回目 まちづくり法規ガイダンス 法律の基本的考え方、まちづくり関連の法律体系 憲法 法律 政令 省令 条例 規則などのガイダンス学習を行う。	準備学習および必要時間(30分):シラバスを読み授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第2回	2回目 国土利用計画法、国土形成計画法、環境基本法、都市計画法 我が国の地域づくりに関連する国土利用計画法、国土形成計画法、環境基本法、都市計画法などの用語や考え方、重要法令などを学習する。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第3回	3回目 都市計画法 宅地造成等規制法 土地区画整理法 農地法 都市計画法における都市計画行政の役割、土地利用規制、開発行為、都市施設、市街地開発事業等を主に学習し、盛土規制法 土地区画整理法 農地法の改正なども踏まえて基本を学習していく。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第4回	4回目 都市再生特別措置法 中心市街地活性化法 都市再生特別措置法 中心市街地活性化法等を実例も交えて基本を解説する。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第5回	5回目 建築基準法 用語と総則 制度規定 全国一律に適用される単体規定 都市計画区域のみ適用の集団規定などの基本を学習する。アクティブラーニングとして容積率や建蔽率の計算問題等の演習も行う。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		

第6回	6回目 宅地建物取引業法 不動産業務の基礎となる宅地建物取引業法の重要点を学ぶ。用語の定義等の総則、免許制度、宅地建物取引士、保証金制度、業務上の規制、監督処分・罰則を学習する。アクティブラーニングとして不動産関連の法規の演習を行う	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第7回	7回目 宅地建物取引業法 借地借家法 建物区分所有法 不動産登記法 不動産業務に関連する法規の宅地建物取引業法 借地借家法 建物区分所有法 不動産登記法の基礎を学ぶ。アクティブラーニングとして不動産関連の法規の演習を行う	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第8回	8回目 まちづくり法規演習 まちづくりに関する法規のレポートを作成して提出する。	準備学習および必要時間(90分):まちづくりの法律について検索して復習し、学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習しレポートや演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第9回	9回目 オリエンテーション:地域社会の中核的コーディネーター⇔地方公務員として活躍する人材の輩出。地域における社会インフラ。自治体で長年インフラ整備・管理を行ってきた経験から、地域住民に必要な社会インフラの現状と将来について、生活者からは見えづらいシステムや課題等の説明を交えながら、議論を進めていく。特に人口減少社会が到来した今、「社会的共通資本」としての社会インフラのあるべき姿を考えることは、直接行政機関とは関係がない(ように見える)企業・機関に進む学生にとっても、「生活者」「市民」としては必須である、という前提で、関連知識と考える技法を獲得することを目指す。	準備学習および必要時間(30分):シラバスを読み授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第10回	10回目 社会インフラの実例1「道路」:役割、重要性、歴史、現状、課題。北海道の特殊性を踏まえた将来像に関する議論を行う。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで道路について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		

第11回	11回目 社会インフラの実例2「旅客運送事業」:JR、バス、地下鉄(札幌市)。まちづくりに果たす役割、新幹線札幌延伸、運転手不足、地下鉄延伸について語る。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで旅客運送事業について検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第12回	12回目 自治体職員になる:業務の多様性(窓口業務から工事監督、こども園の教師から大学教授)、国家公務員or地方公務員、社会的立ち位置等、やり甲斐について語る。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで地方公務員法、地方自治法などを検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第13回	13回目 社会インフラの実例3「治水・利水・防災・再開発」:河川事業と道路事業、上下水道事業の課題、再開発の状況、大規模集客施設の実現。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで地方自治法、治水・利水・防災・再開発などを検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第14回	14回目 社会インフラの実例4「現地視察」:市民が日常生活を円滑に営むために利用している各種施設の舞台裏を見学(札幌市施設を想定:地下鉄車両基地、浄水場等)。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで地方自治法、札幌市公共施設、地下鉄車両基地、浄水場などを検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第15回	15回目 北海道を支える人になる:豊かな1次産業、(比較的)冷涼というアドバンテージを活かし、サステナビリティを先導する地域の担い手になっていくために。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで地方自治法、北海道、人材育成などを検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>各授業の出席状況(20%)と各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート(50%)による合計100%で評価する。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p><b>教科書</b></p>		
<p>オリジナル資料を配布する</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>なし</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>出席、毎回演習シート提出、レポート作成・提出で成績評価する。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>インターネットによる資料検索等を事前学習で行う</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。

ICT活用

課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、自分なりの“地域”のイメージを持って授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○教員①担当回(事前学習) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についての事前学習 ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	○教員①担当回(フィールドワーク) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についてのフィールドワーク ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業(事前学習、フィールドワーク)に取り組む姿勢やレポート・アクションペーパーなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		人間科学部 地域未来学科					
<b>区分</b>		演習科目 地域未来基礎					
<b>科目名</b>		地域を知る(地域未来創造入門)(木村 俊昭)				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2024年度前期	<b>区分</b>	演習	<b>単位</b>	1
<b>担当教員</b>	木村 俊昭						

**授業の位置づけ**

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

**授業の概要**

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

**到達目標**

本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べることができる。

**授業の方法**

パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。

**ICT活用**

課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、自分なりの“地域”のイメージを持って授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○教員①担当回(事前学習) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についての事前学習 ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	○教員①担当回(フィールドワーク) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についてのフィールドワーク ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業(事前学習、フィールドワーク)に取り組む姿勢やレポート、リアクションペーパーなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。</p>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	中田 和彦						
<b>授業の位置づけ</b>							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。							
<b>授業の概要</b>							
本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。							
<b>到達目標</b>							
本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べられることができる。							
<b>授業の方法</b>							
パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。							
<b>ICT活用</b>							
課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、自分なりの“地域”のイメージを持って授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○教員①担当回(事前学習) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についての事前学習 ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	○教員①担当回(フィールドワーク) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についてのフィールドワーク ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業(事前学習、フィールドワーク)に取り組む姿勢やレポート、リアクションペーパーなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べられることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。

ICT活用

課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、自分なりの“地域”のイメージを持って授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○教員①担当回(事前学習) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についての事前学習 ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	○教員①担当回(フィールドワーク) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についてのフィールドワーク ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業(事前学習、フィールドワーク)に取り組む姿勢やレポート、リアクションペーパーなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べられることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。

ICT活用

課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、自分なりの“地域”のイメージを持って授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○教員①担当回(事前学習) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についての事前学習 ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	○教員①担当回(フィールドワーク) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についてのフィールドワーク ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業(事前学習、フィールドワーク)に取り組む姿勢やレポート、リアクションペーパーなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。

ICT活用

課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、自分なりの“地域”のイメージを持って授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	○教員①担当回(事前学習) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についての事前学習 ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	○教員①担当回(フィールドワーク) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についてのフィールドワーク ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業(事前学習、フィールドワーク)に取り組む姿勢やレポート、リアクションペーパーなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(松田 祐)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べられることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。

ICT活用

課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、自分なりの“地域”のイメージを持って授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○教員①担当回(事前学習) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についての事前学習 ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	○教員①担当回(フィールドワーク) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についてのフィールドワーク ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業(事前学習、フィールドワーク)に取り組む姿勢やレポート、リアクションペーパーなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。</p>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								人間科学部 地域未来学科											
区分								演習科目 地域未来基礎											
科目名								地域未来創造基礎(Adventure) (熊野 稔)								ナンバリング			
配当年次		1年		開講学期		2024年度後期		区分		演習		単位		1					
担当教員		熊野 稔																	

## 授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

## 授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

## 到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

## 授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

## ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

## 実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
担当教員の指示による。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○各担当教員(7名)によるゼミ形式の授業(第2～15回) ※地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期にかけて、学生全員に対して別途通知する予定とする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業に取り組む姿勢、レポート、リアクションペーパー、プレゼンテーションなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各担当教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期を目途に、別途通知する予定とする。 また、前期ゼミ科目と同じく、時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>なし</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明できる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
担当教員の指示による。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○各担当教員(7名)によるゼミ形式の授業(第2～15回) ※地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期にかけて、学生全員に対して別途通知する予定とする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業に取り組む姿勢、レポート、リアクションペーパー、プレゼンテーションなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各担当教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期を目途に、別途通知する予定とする。 また、前期ゼミ科目と同じく、時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>なし</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	中田 和彦						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
担当教員の指示による。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○各担当教員(7名)によるゼミ形式の授業(第2～15回) ※地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期にかけて、学生全員に対して別途通知する予定とする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業に取り組む姿勢、レポート、リアクションペーパー、プレゼンテーションなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各担当教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期を目途に、別途通知する予定とする。 また、前期ゼミ科目と同じく、時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>なし</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure) (宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
担当教員の指示による。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○各担当教員(7名)によるゼミ形式の授業(第2～15回) ※地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期にかけて、学生全員に対して別途通知する予定とする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業に取り組む姿勢、レポート、リアクションペーパー、プレゼンテーションなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各担当教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期を目途に、別途通知する予定とする。 また、前期ゼミ科目と同じく、時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>なし</p>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年度	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						
<b>授業の位置づけ</b>							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。							
<b>授業の概要</b>							
本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。							
<b>到達目標</b>							
本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べられることができる。							
<b>授業の方法</b>							
パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。							
<b>ICT活用</b>							
課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、自分なりの“地域”のイメージを持って授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○教員①担当回(事前学習) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についての事前学習 ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	○教員①担当回(フィールドワーク) ・担当回を受け持つ教員が提供する「地域のテーマ・トピック」についてのフィールドワーク ※他の学科教員についても同様のスキーム(事前学習→フィールドワーク)で繰り返し開講していく(のべ7回)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業(事前学習、フィールドワーク)に取り組む姿勢やレポート、リアクションペーパーなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。</p>		

## 2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
<b>授業の位置づけ</b>							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。							
<b>授業の概要</b>							
本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。							
<b>到達目標</b>							
本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。							
<b>授業の方法</b>							
主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。							
<b>ICT活用</b>							
主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
担当教員の指示による。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○各担当教員(7名)によるゼミ形式の授業(第2～15回) ※地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期にかけて、学生全員に対して別途通知する予定とする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業に取り組む姿勢、レポート、リアクションペーパー、プレゼンテーションなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各担当教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期を目途に、別途通知する予定とする。 また、前期ゼミ科目と同じく、時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>なし</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		人間科学部 地域未来学科					
<b>区分</b>		演習科目 地域未来基礎					
<b>科目名</b>		地域未来創造基礎(Adventure) (松田 祐)				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2024年度後期	<b>区分</b>	演習	<b>単位</b>	1
<b>担当教員</b>	松田 祐						

**授業の位置づけ**

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

**授業の概要**

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

**到達目標**

本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

**授業の方法**

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

**ICT活用**

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

**実務経験のある教員の教育内容**

国家公務員や地方教育行政、民間企業、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
担当教員の指示による。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ガイダンス ・本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	○各担当教員(7名)によるゼミ形式の授業(第2～15回) ※地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期にかけて、学生全員に対して別途通知する予定とする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業に取り組む姿勢、レポート、リアクションペーパー、プレゼンテーションなどを中心に総合的に評価する。学生は、無作為に割り当てられた担当教員による指導を適宜受け、成績についても担当教員が評価する。なお、定期試験は行わない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>各担当教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、シラバス相当の授業情報については、前期終了後～後期オリエンテーションの時期を目途に、別途通知する予定とする。 また、前期ゼミ科目と同じく、時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p>なし</p>		